

府會議員協議會

明治三十九年十一月七日、府會議員全員協議會を開き、土木及教育に關する委員を設くることに決定し、齋藤府會議長は、杉原市部會議長及瀬沼郡部會議長等の意向を參酌して次の通選定し、翌八日附を以て各本人に通知を發した。

土木ニ關スル委員

委員長	松尾清次郎	理事	松見文平
	佐伯幸四郎		山崎林次郎
	村田權次郎		竹内久兵衛
	鈴木亮藏		沼田辰五郎
	大川誠吾		

教育ニ關スル委員

委員長	中島行孝	理事	日下部三之介
	水町猪三郎		苗村又右衛門
	相川尙清		徳岡梅吉
	牛込金三		

通常府會

本會は、明治三十九年十二月一日午後一時四十分、開會し、會議四日間に涉り、十二月十七日午後四時三十七分、議事終了散會した。

開會の當初、知事男爵千家尊福は、次の開會辭を述べた。

「諸君、本日ヲ以テ府會ヲ開會イタシマス、當府會ニ提出スル議案ハ四十年ノ豫算竝ニ之ニ附帶スル議案テアル、其豫算ノ中ニ於テ重モナル事業ノ概略ヲ御話申シマスレハ來年度ニ於キマシテハ警察廳舎ノ建築、其中ノ警察署ノ建築竝ニ分署、交番所、派出所ノ増設、巡查ノ定員充實等ニ係ルカ重モナル費用テアリマス、其外ニ於キマシテハ來年度ニ於テ開設スル勸業博覽會ノ經費ニ屬スルモノテアリマス、ソレカラ教育費ノ方ニ於テハ高等女學校又園藝學校ノ新設ヲ必要ト認メマシテ之ニ對スル豫算ヲ提出イタシマシタ、又工藝學校ハ來年度ヨリ事業ヲ開始イタシマスニ付テ之ニ對スル費用モ提出イタシマシタヤウナ次第テ、巢鴨病院ノ方ニ於キマシテハ時局ノ爲メ一時繰延ニ致シテ置イタ、繼續事業ノ一部ヲ來年度ヨリ着手スル考テアリマス、其外ハ看護人ノ爲ニ寄宿舎ノ設置ヲ必要ト認メマシテ之ニ對スル費用モ提出イタシマシタ、其外種々ナル事項モアリマスケレトモ、夫等ハ議案ニ添付シタル説明書ニ讓置キマシテ詳細ナル説明ハ茲ニ省略ヲ致シテ置キマス、右様ナ次第デアリマスカラ十分御審議ノ上適當ノ議決アラムコトヲ望ミマス(明治三十九年府會速記録)」

齋藤議長は、先づ、次の事項を報告した。

午官發第二六三號

本年通常府會市部會郡部會ノ議事參與員別紙之通ニ有之候間此段及通牒候也

明治三十九年十一月二十九日 東京府知事 男爵 千家 尊福

東京府會議長 齋藤 孝治 殿

(別紙)

東京府事務官堀	信次	東京府事務官岡	五郎
東京府技師 原 龍太	東京府屬 竹内順吉		
東京府屬 久保義三郎	東京府屬 澁谷元良		
東京府屬 武藤文吾	東京府屬 佐藤 襄		
東京府屬 内野吉次郎	東京府屬 高橋徳太郎		
東京府屬 今城浩一	東京府技手 王供阿久		
東京府技手 鈴木琢磨			

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十九年通常府會市部會郡部會議事ニ參與ヲ命ス

警視	太田 政弘	警視	伊澤多喜男
警視	岡田 文次	警視	吉留寛夫
警察醫長	栗本 庸勝	警視屬	長澤誠之助
警視廳警部	實田 通經	警視屬	淺田福一郎
警視廳技手	大富 達丙		

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十九年通常府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ囑託ス

議長は、會議の同意を得て、中村平三郎、杉原榮三郎を會議錄署名議員に選定した。この通常會に於ては熾んに質問出て、論議も相當慎重にせられた。豫算案は各費目共舉て調査委員附託となつたが、これは前年の例を踏襲したと云ふに止り、甚しく削減を加へられた費目はなかつた。又、單獨議案たる第四高等女學校及園藝學校創設費の繼續年期案の如きは、却て、原案の繼續年限を短縮して修正議決し、又、府立各學校の特別會計豫算中入學試験手数料の項を總て削除したが、これは、寧ろ原案を苛酷なりとする意見に出たもので、理事者も強て反對する必要のない修正であつた。斯様に、議決の結果から見れば、議事は至極順調であつたといふべきで

ある。思ふにこれは、明春開設の東京勸業博覽會に巨費を要する爲め、一般經費は努めて節約を旨として豫算を編成したので、自然削減の餘地がなかつたこと、開會が近く明春に迫れる博覽會を控へて、この通常會は圓滿裡に終了したいといふ心持が、理事者議員を通じての衷心の希望であつたこと等が其の原因であつたらう。此外、現在議員の任期が明年九月を以て満了するから、今後臨時會が開かれない限りは、この通常會が最終の會議となるので、全議員が期せずして議事の進捗に眼めた影響もあつたことと考へる。

かゝる次第であるが、議員の質問した事項中には、肯綮に中つた事が少くないので、次に其の主なるものを掲げる。

一 市内の河川に繋留の家根船取締に關する質問

議員袴田瀧三郎は、明春を期して、比較的大規模の東京勸業博覽會が開かれ、内外の貴顯其の他の觀覽者があることも豫想せらるゝのに、市内の河川に繋留する家根船の醜體は眞に觀望の極みである。彼の家根船なるものは、船と稱するも航行するものでなく、水上に在る細民長屋とも見るべきで、それが日本橋の橋下其の他市内樞要の場所に繋留して醜狀を曝してゐるのは、帝都の面目上、何とか相當の取締法を講ずる必要ありと思考するが、當局の所見は如何と質問し、杉原榮三郎も、兩國橋附近に繋留せる遊船即ち料理屋營業をして居る船舶に就ては、如何なる理由に依て之を許可せられたか、果して取締上差支なしと認めらるか、將來に影響するところ極めて重大なりと信ずるから、明確なる答辯を望むと質した。この袴田議員の質問に對し、番外長澤警視屬は、質問の趣は當局も同感である。到底此の儘抛擲し置くべき事柄ではないから、適當の取締をする考である」と答へた。又、杉原議員の質問には、番外岡田警視が、兩國橋傍に繋留の遊船は、船舶としては船鑑札規則に基き主官廳たる東京府から船鑑札を下付されたものである。其の料理屋營業は、現在に於ては差支なしと認め、警視廳に於て許可したのである」と答へたが、杉原議員は之に満足せず、岡田警視との間に再三質問應答があつた。兎も角この質問が當局に多大の刺戟を與へ、取締を嚴密にする動機となつたのである。

二 警察費剩餘金に關する質問

議員杉原榮三郎は、此の場合に於て、市部豫算をも包含せる警察費に關して質問する。從來警察費は毎年數萬圓の殘餘を生ずるの例である。これは、主として巡查の募集が不成績の爲め豫算に計上の巡查定員を充たすことが出来ないで、其の

俸給が殘餘となつて現はれるのであるが、數年來同一狀態を繰返して居る。故に、この數萬圓の金額は、事實上全く不要の金額なりと云ふも差支ない。然るに、一面に於て府民はこの不要なる豫算計上の爲めに、毎年數萬圓の府税を賦課されて居るので、不經濟極まる次第である。數年來の實況が此の如しとすれば、將來も亦同一の狀態を繰返すものと斷定することが出来るから、寧ろ巡查の定員を減少して、其の不要金額を豫算から控除し、幾分にも府民の負擔を輕減するのを適當と信ずる。理事者の所見は果して如何と述べた。之に對して番外長澤警視屬は「從來巡查の缺員が多かつたため、年々豫算に殘餘を生じたのは事實であるが、巡查の待遇等も改善することになつて居るので、今後は漸次定員を充たし得ることゝ信ずるから、原案を認められたい」と希望を述べて答辯し、結局原案を認めることゝなつた。

三 汽機汽罐検査に關する質問

杉原榮三郎は「近時工業の發達に伴つて工場が増し、従て、汽機汽罐の検査を要する數が頗る増加した。然るに、當該検査官の検査が兎角敏活を缺く爲め、工業家は非常に不便と困難とを感じ、批難の聲が喧しい。中には、東京の工業が發達しない

のは、警視廳在るがためなりと不平の聲を放つものもある。我府會は、曩に技手八人の増員を認めて居るに拘らず、斯く検査の澁滯を來たすのは如何なる理由であるか、詳細なる答辯を望む」と質問したのに、番外岡田警視は「増員八人中六人は建築物検査の技手を任用し、二人を汽機汽罐の検査技手としたものであつて、検査も餘程敏活となつたことゝ信ずるが、たゞ汽機汽罐の増加が著しいので、尙多少手後れになる憾なしとせぬ。將來は一層注意して敏活を期する考である」と答へた。

會議最終日の十二月十七日に、杉原榮三郎から「國民一般が、神の如く尊敬してゐる乃木大將が、過日參内の途次不慮の災禍(負傷)に罹られたことは、我々の驚愕措く能はざる所である。其の後の経過は漸次快方に向はれた由であるが、東京府會は、議長を以て同大將を見舞ふことに致したい」と建議し、全會一致を以て可決した。

この決議によつて齋藤議長は、翌十二月十八日府會を代表して同大將を見舞つた。議事が終つた後、齋藤議長は、過般東京に於て、全國府縣會議長の會合を催ふした際、府會議員各位の歡待斡旋に努められた勞を謝し、尙明年五月頃第二回の會合を開催する豫定であつて、其の後も引續き開くことゝなるであらうと、謝意を兼ねて報告し、又、議長の職を汚がすこと、茲に四箇年任期は明年九月迄存續するが、通常會

はこの會を最終とするので、此の機會に於て、諸君平素の御援助に對し、深く感謝の意を表すると挨拶した。之に對し杉原榮三郎は議員一同に代り、齋藤議長の功勞を感謝し、其の健康を祈る旨答辭を述べた。

最後に千家知事は、議員連日の勞を謝して、閉會を告げた。

議案 附建議案

- 府第一號議案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正ノ件……………可決
- 府第二號議案 明治四十年度市部郡部ノ分擔及收入割合ノ件……………可決
- 府第三號議案 不動産寄附受領ノ件……………可決
- 府第四號議案 明治四十年度東京府歳入歳出豫算書……………修正
- 府第五號議案 明治四十年度東京府罹災救助基金歳入歳出豫算書……………可決
- 府第六號議案 明治四十年度東京府小學校教員恩給基金歳入豫算書……………可決
- 府第七號議案 明治四十年度東京府小學校教員恩給金歳入歳出豫算書……………可決

出豫算書……………可決

府第八號議案 明治四十年度東京府小學校教員加俸資金歳入歳出豫算書……………可決

府第九號議案 明治四十年度東京府教育資金歳入歳出豫算書……………可決

府第十號議案 明治四十年度東京府師範學校基本金歳入豫算書……………可決

府第十一號議案 明治四十年度東京府女子師範學校基本金歳入豫算書……………可決

府第十二號議案 明治四十年度東京府第一中學校基本金歳入豫算書……………修正

府第十三號議案 明治四十年度東京府第二中學校基本金歳入豫算書……………可決

府第十四號議案 明治四十年度東京府第三中學校基本金歳入豫算書……………修正

府第十五號議案 明治四十年度東京府第四中學校基本金歳入豫算書……………修正

府第十六號議案	明治四十年度東京府第一高等女學校基本金歲入豫算書	修正
府第十七號議案	明治四十年度東京府第二高等女學校基本金歲入豫算書	修正
府第十八號議案	明治四十年度東京府第三高等女學校基本金歲入豫算書	修正
府第十九號議案	明治四十年度東京府織染學校基本金歲入豫算書	可決
府第二十號議案	明治四十年度東京府巢鴨病院基本金歲入豫算書	可決
府第二十一號議案	明治四十年度東京府第一中學校戰役記念獎學金歲入歲出豫算書	可決
府第二十二號議案	明治四十年度東京府普通教育獎勵金歲入歲出豫算書	可決
府第二十三號議案	自明治四十二年度東京府教育費繼續年期及支出方法	修正
府第二十四號議案	自明治四十二年度東京府教育費繼續年期及支出方法	修正

府第二十五號議案	積立金ノ設置及特別會計ニ關スル方法改正ノ件	修正
府第二十六號議案	積立金ノ設置及特別會計ニ關スル件	可決
府第二十七號議案	積立金ノ處分ニ關スル件	可決
	明治三十八年度東京府歲入歲出決算書	承認
	行旅病人死亡人及精神病者ニ關スル費用ヲ國庫支辨ニ移スノ建議案	可決
	小學校教員優遇ニ關スル建議案	可決
	荒川筋河川改修工事ノ提案ヲ求ムル建議案	可決
	東京勸業博覽會々期延長ニ關スル建議案	可決
	ペスト豫防ニ關スル建議案	可決
	教育篤志家横川梅子表彰ニ關スル建議案	可決
	水上警察ノ設備擴張ニ關スル建議案	可決

議決摘要

府第一號議案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正ノ件 可決

府會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別中左ノ通改ムルモノトス

市部會議決事件中
〔財産費〕ノ次ニ府社費但市内ノ府社ニ關スルモノヲ加フ
郡部會議決事件中
〔財産費〕ノ次ニ府社費但郡内ノ府社ニ關スルモノヲ加フ

府第二號議案 明治四十年度市部郡部ノ分擔及收入割合ノ

件……………可決

明治三十二年勅令第二百八十五號第五條ニ依リ明治四十年度府費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合左ノ通改ムルモノトス

市部郡部分擔ノ割合

府社費

市部郡部收入ノ割合

財産賣拂代ノ内勸業博覽會收入 郡市 九分一厘

市部郡部分擔收入割合參考表

科	目	四十年度郡市割合	割	合	標	準
府社費	勸業博覽會收入ノ内	郡市 七分六厘	人口			
		郡市 九分一厘	歳出當該科目ノ割合ニ依ル			

府第三號議案 不動産寄付受領ノ件……………可決

東京府南多摩郡八王子町ノ内ニ於テ府ノ指定シタル場所
一土地約六千坪

右南多摩郡八王子町ヨリ寄付

右府立高等女學校用トシテ寄付ノ儀前記ノ通出願ニ付受領スルモノトス
(原案説明) 南多摩郡八王子町ニ府立高等女學校設置ノ場合ハ本案ノ土地寄付ノ儀出願ニ付之ヲ採納セントスルニ由ル

府第四號議案 明治四十年度東京府歳入歳出豫算書……………修正

歳入

經常部

第一款 財產收入 金壹萬四千八圓七拾貳錢六厘

第一項 不動產收入 金五千七百參拾八圓七拾貳錢六厘

第二項 動產收入 金八千貳百七拾圓

第二款 國庫下渡金 金五萬千拾八圓貳拾壹錢

第一項 警察費下渡金 金五萬千拾八圓貳拾壹錢

第三款 雜收入 金貳拾參萬千九拾圓八拾錢

第四款 市郡分賦額 金八拾六萬七千九百壹圓拾錢四厘

(修正)金九拾萬四千貳拾五圓拾錢四厘

市部收入 金六拾壹萬參千五百參拾七圓參拾五錢貳厘

內 (修正)金六拾四萬參百拾六圓參拾七錢七厘

郡部收入 金貳拾五萬四千參百六拾參圓七拾五錢貳厘

(修正)金貳拾六萬參千七百八圓七拾貳錢七厘

第一項 市郡分賦額 金八拾六萬七千九百壹圓拾錢四厘

(修正)金九拾萬四千貳拾五圓拾錢四厘

(修正理由) 歲出ノ修正ニ伴フニ由ル

經常部合計金百拾六萬四千拾八圓八拾四錢

(修正)金百貳拾萬百四拾貳圓八拾四錢

臨時部

第一款 國庫補助金 金壹萬百拾參圓壹錢五厘

第一項 傳染病豫防費補助金 金貳千九百九圓六拾貳錢五厘

第二項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金貳拾五圓

第三項 蠶病豫防費補助金 金參千參百七拾八圓參拾九錢

第四項 教育費補助金 金參千八百圓

第二款 財產賣拂代 金貳萬貳百拾六圓

第一項 不動產賣拂代 金貳萬貳百拾六圓

臨時部合計金參萬參百貳拾九圓壹錢五厘

歲入總計金百拾九萬四千參百四拾七圓八拾五錢五厘

(修正)金百貳拾參萬四百七拾壹圓八拾五錢五厘

市部收入 金八拾八萬壹千貳百九拾七圓六拾八錢六厘

内

(修正)金九拾萬八千七拾六圓七拾壹錢壹厘

郡部收入 金參拾壹萬參千五拾圓拾六錢九厘

(修正)金參拾貳萬貳千參百九拾五圓拾四錢四厘

歲出

經常部

第一款 警察費 金拾貳萬七千六百拾六圓八拾九錢五厘

第一項 俸給及諸給 金四萬九千八百四拾五圓五錢

巡查九十二人月俸拾六圓二百人月俸拾圓此金四萬壹千六百六拾四圓其他手當書記給旅費給與惠與諸傭給巡查給助等

(原案說明) 巡查增員ヲ要スル爲受業生ノ定員ヲ増シタル爲メ前年度ニ比シ壹萬參千餘圓ヲ増ス

第二項 廳費 金四萬四千七百七拾壹圓八拾四錢五厘

第三項 機密費 金參萬參千圓

(原案說明) 前年度ニ比シ參千圓ヲ増ス

第二款 警察廳舍修繕費 金五百貳拾八圓六拾參錢

第一項 修繕費 金五百貳拾八圓六拾參錢

第三款 土木費 金七萬五千七百五拾圓

(修正)金七萬五千五百四拾四圓五拾錢

第一項 道路橋梁費 金貳百五拾圓

第二項 治水堤防費 金七萬五千五百圓

(修正)金七萬五千貳百九拾四圓五拾錢

(修正理由) 堤防修繕ニ於テ締切工事ノ必要ナキモノ一ヶ所ヲ削除シタルニ由ル(調査委員長 松見文平)

第四款 府會議諸費 金壹萬參千五圓參拾錢

第一項 府會議費 金八千四百七拾壹圓參拾錢

第二項 府參事會諸費 金四千五百參拾四圓

第五款 衛生及病院費 金拾貳萬四千四百九拾圓八拾參錢

第一項 衛生諸費 金壹萬七千五百六拾五圓七拾五錢

第二項 巢鴨病院費 金九萬參千六百九拾八圓七拾貳錢

第三項 檢徵費 金五千八百七拾八圓

第四項 屠畜検査費 金四千參百四拾八圓參拾六錢

第六款 教育費 金參拾壹萬千九百四拾貳圓參拾九錢

第一項 師範學校費 金九萬貳千參百拾圓八拾九錢

第二項 中學校費 金九萬貳千貳拾五圓四拾四錢

第三項 高等女學校費 金四萬千八百拾參圓拾壹錢

第四項 織染學校費 金貳萬千六百貳拾六圓拾錢

第五項 工藝學校費 金四萬五千貳百四拾壹圓貳拾九錢

第六項 學事諸費 金壹萬六千六拾圓四拾錢

第七項 小學校教員檢定費 金八百六拾五圓拾六錢

第八項 留學生費 金九百圓

第九項 退職給與費 金千圓

(原案説明) 新ニ工藝學校費及第四高等女學校費ヲ計上シ其他各學校職員ノ増俸生徒諸費ノ増加等ヲ見込ミタル爲約參萬圓ヲ増ス(韓國委託學生費ハ本年度ヨリ計上セス)

第七款 教育費 金七萬參千四百六拾八圓貳拾貳錢

第一項 救助費 金七萬參千四百六拾八圓貳拾貳錢

第八款 諸達書及揭示諸費 金四千八百七拾六圓四拾參錢四厘

第一項 令達諸費 金四千八百七拾六圓四拾參錢四厘

第九款 勸業費 金拾壹萬九千九圓貳拾貳錢參厘

第一項 勸業會費 金八萬九千參百八拾貳圓五拾五錢

東京勸業博覽會費八萬八千六百七拾八圓五錢其他地方森林會費共進會品評會獎勵費等

第二項 勸業諸費 金七千四百貳拾八圓六拾參錢

第三項 森林經營費 金壹萬九千七百五拾七圓四錢參厘

第四項 獸疫豫防費 金貳千四百四拾壹圓

第十款 府費取扱費 金四千貳百拾八圓

第一項 徵收費 金四百拾八圓

第二項 金庫諸費 金參千八百圓

第十款 府廳舎修繕費 金貳千五百參拾壹圓

第一項 修繕費 金貳千五百參拾壹圓

第十款 衆議院議員選舉費 金千六百六拾五圓八拾錢

- 第一項 選舉費 金千六百六拾五圓八拾錢
 - 第三款 府會議員選舉費 金九百九拾五圓四拾五錢
 - 第一項 選舉費 金九百九拾五圓四拾五錢
 - 第七款 府吏員費 金五萬百八拾四圓貳拾八錢
 - 第一項 吏員費 金四萬八千八百四拾九圓八拾八錢
 - 第二項 委員費 金千參百參拾四圓四拾錢
 - 第五款 財產費 金九拾圓
 - 第一項 管理費 金九拾圓
 - 第六款 土地收用費 金百四拾圓
 - 第一項 審查諸費 金百四拾圓
 - 第七款 府社費 金貳拾圓
 - 第一項 府社費 金貳拾圓
 - 第六款 豫備費 金壹萬五千圓
 - 第一項 豫備費 金壹萬五千圓
- 經常部合計金九拾貳萬貳千五百參拾貳圓四拾五錢貳厘

(修正)金九拾貳萬貳千參百貳拾六圓九拾五錢貳厘

臨時部

- 第一款 土木費 金八萬四千貳百四拾七圓五拾錢
- 第一項 治水堤防費 金八萬四千貳百四拾七圓五拾錢
- 第二款 衛生及病院費 金壹萬七千參百七拾圓九拾貳錢八厘
- 第一項 巢鴨病院費 金壹萬七千參百七拾圓九拾貳錢八厘
- 第三款 教育費 金九千參百拾貳圓
- 第一項 師範學校費 金參千貳百四拾參圓
- 第二項 織染學校費 金四千九百拾圓
- 第三項 高等女學校費 金七百九拾九圓
- 第四項 中學校費 金參百六拾圓
- 第四款 勸業費 金貳千貳百八拾圓
- 第一項 建築費 金貳千貳百八拾圓
- 森林經營ニ伴フ林道開設費
- 第五款 市町村傳染病豫防補助費 金百五拾圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金百五拾圓

第六款 教育補助費 金參千百圓

第一項 教育補助費 金參千百圓

第七款 勸業補助費 金參千圓

第一項 勸業補助費 金參千圓

東京勸業協會補助

第八款 感化院補助費 金五千圓

第一項 感化院補助費 金五千圓

第九款 教育費本年度支出額 金六萬七千五百參拾壹圓九拾七錢五厘

(修正)金拾萬參千八百六拾壹圓四拾七錢五厘

第一項 工藝學校費本年度支出額 金四萬五千四百五拾五圓九拾七錢五厘

第二項 高等女學校費本年度支出額 金貳千百四拾圓

(修正)金參萬八千四百六拾九圓五拾錢

(修正理由) 府第二十三號議案第四高等女學校創設費繼續年期及支出方法ノ修正ニ伴フニ由ル

第三項 園藝學校費本年度支出額 金壹萬九千九百參拾六圓

第十款 土木費本年度支出額 金七萬九千八百貳拾參圓

第一項 治水堤防費本年度支出額 金七萬九千八百貳拾參圓

臨時部合計金貳拾七萬千八百拾五圓四拾錢參厘

(修正)金參拾萬八千四百四拾四圓九拾錢參厘

歲出總計金百拾九萬四千參百四拾七圓八拾五錢五厘

(修正)金百貳拾參萬四百七拾壹圓八拾五錢五厘

市部負擔 金八拾八萬千貳百九拾七圓六拾八錢六厘

內 (修正)金九拾萬八千七拾六圓七拾壹錢壹厘

郡部負擔 金參拾壹萬參千五拾圓拾六錢九厘

(修正)金參拾貳萬貳千參百九拾五圓拾四錢四厘

府第五號議案 明治四十年東京府罹災救助基金歲入歲

出豫算書……………可決

府第六號議案 明治四十年東京府小學校教員恩給基金

府第七號議案	明治四十年東京府小學校教員恩給金歲	歲入豫算書	可決
府第八號議案	明治四十年東京府小學校教員加俸資金	入歲出豫算書	可決
府第九號議案	明治四十年東京府教育資金歲入歲出豫算書	歲入歲出豫算書	可決
府第十號議案	明治四十年東京府師範學校基本金歲入豫算書	豫算書	可決
府第十一號議案	明治四十年東京府女子師範學校基本金歲入豫算書	歲入豫算書	可決
府第十二號議案	明治四十年東京府第一中學校基本金歲入豫算書	入豫算書	修正

第一款 第一中學校基本金 金千貳百六圓七拾錢

(修正)金貳拾八圓七拾錢

- 第一項 經常費剩餘繰入 金拾五圓
 - 第二項 財產收入 金七拾錢
 - 第三項 物品賣拂代 金拾參圓
 - 第四項 入學試驗手數料 金千百七拾八圓(修正削除)
- (修正理由) 中等教育ノ普及獎勵上受験料ヲ徵スルハ害アリト認ムルニ由ル(議員杉原榮三郎動議)

歲入合計金千貳百六圓七拾錢

(修正)金貳拾八圓七拾錢

府第十三號議案 明治四十年東京府第二中學校基本金歲

入豫算書.....可決

(註) 第二中學校は、特別の理由に依り、入學試験手數料を徵せざる方針であつた。

府第十四號議案 明治四十年東京府第三中學校基本金歲

第五章 府會の行動 明治三十九年の府會

入豫算書……………修正

歲入

第一款 第三中學校基本金 金五百參拾九圓四拾錢

(修正)金百拾壹圓四拾錢

第一項 經常費剩餘繰入 金百圓

第二項 財產收入 金四拾錢

第三項 物品賣拂代 金拾壹圓

第四項 入學試驗手數料 金四百貳拾八圓(修正削除)

(修正理由) 府第十二號議案=同シ議員杉原榮三郎動議

歲入合計金五百參拾九圓四拾錢

(修正)金百拾壹圓四拾錢

府第十五號議案 明治四十年年度東京府第四中學校基本金歲

入豫算書……………修正

歲入

第一款 第四中學校基本金 金千貳百六拾五圓四拾錢

(修正)金六百參拾五圓四拾錢

第一項 經常費剩餘繰入 金貳百參拾圓

第二項 財產收入 金參百九拾四圓四拾錢

第三項 物品賣拂代 金拾壹圓

第四項 入學試驗手數料 金六百參拾圓(修正削除)

(修正理由) 府第十二號議案=同シ議員杉原榮三郎動議

歲入合計金千貳百六拾五圓四拾錢

(修正)金六百參拾五圓四拾錢

府第十六號議案 明治四十年年度東京府第一高等女學校基本

金歲入豫算書……………修正

歲入

第一款 第一高等女學校基本金 金五百拾圓九拾錢

(修正)金貳百七拾六圓九拾錢

第一項 經常費剩餘繰入 金百九拾圓

第二項 財產收入 金六拾六圓九拾錢

第三項 物品賣拂代 金貳拾圓

第四項 入學試驗手數料 金貳百參拾四圓〔修正削除〕

〔修正理由〕府第十二號議案ニ同シ〔議員杉原榮三郎動議〕

歲入合計金五百拾圓九拾錢

〔修正〕金貳百七拾六圓九拾錢

府第十七號議案 明治四十年度東京府第二高等女學校基本金歲

入豫算書……………修正

歲入

第一款 第二高等女學校基本金 金參百四圓八錢

〔修正〕金貳拾八圓八錢

第一項 經常費剩餘繰入 金貳拾七圓

第二項 財產收入 金壹圓八錢

第三項 入學試驗手數料 金貳百七拾六圓〔修正削除〕

〔修正理由〕府第十二號議案ニ同シ〔議員杉原榮三郎動議〕

歲入合計金參百四圓八錢

〔修正〕金貳拾八圓八錢

府第十八號議案 明治四十年度東京府第三高等女學校基本

金歲入豫算書……………修正

歲入

第一款 第三高等女學校基本金 金千貳圓五拾錢

〔修正〕金參百參拾四圓五拾錢

第一項 經常費剩餘繰入 金貳百八拾圓

第二項 財產收入 金四拾貳圓

第三項 物品賣拂代 金拾貳圓五拾錢

「第四項 入學試驗 手數料 金六百六拾八圓(修正削除)

(修正理由) 府第十二號議案ニ同シ議員杉原榮三郎動議

歳入合計金千貳圓五拾錢

(修正)金參百參拾四圓五拾錢

府第十九號議案 明治四十年東京府織染學校基本金歳入

豫算書……………可決

府第二十號議案 明治四十年東京府巢鴨病院基本金歳入

豫算書……………可決

府第二十一號議案 明治四十年東京府第一中學校戰役記念

奨學金歳入歳出豫算書……………可決

府第二十二號議案 明治四十年東京府普通教育獎勵金歳入

歳出豫算書……………可決

府第二十三號議案

自明治四十年(修正)年度東京府教育費繼續年

期及支出方法……………修正

一金五萬七千八百拾壹圓七拾五錢

教育費中建築費

内 譯

金貳千四百拾圓

明治四十年支出額

(修正)金參萬八千四百六拾九圓五拾錢

金參萬六千參百貳拾九圓五拾錢

明治四十一年度支出額

(修正)金壹萬九千參百四拾貳圓貳拾五錢

「金壹萬九千參百四拾貳圓貳拾五錢

明治四十二年度支出額(修正削除)

右ハ女子教育ノ發展ニ伴ヒ郡部小學校卒業ノ女子ニシテ進ンテ高等普通教育ヲ受ケントスル者年毎ニ多キヲ加フル傾向ヲ呈シ來レリ然ルニ東京市附近ノ地ニ於テハ市内又ハ市附近ニアル高等女學校若クハ同程度ノ各種學校ニ通學スルノ便アリト雖モ此等便宜ナキ郡部ニ於テハ全ク小學校以上ノ教育ヲ授クル女學校

ノ設備ナク僅ニ南多摩郡八王子町ニ一ノ高等女學校類似ノ私立女學校アルモ是亦維持困難ニシテ永續ヲ期スヘカラス依テ郡部ニ一ノ高等女學校ヲ新設シ以テ女子教育ノ普及ヲ謀ランカ爲「三ヶ年」「二ヶ年」ト修正繼續事業トシテ其ノ完成ヲ期セントス

(修正理由) 速成ヲ期スルノ必要ヲ認ムルニ由ル(調査委員意見 委員長杉原榮三郎)

府第二十四號議案

自明治四十一年度東京府教育費繼續年

期及支出方法……………修正

一金五萬六千八百五拾壹圓

教育費 中 建築費

内 譯

金壹萬九千九百參拾六圓

明治四十年 度 支出額

金貳萬五千七拾五圓

明治四十一年 度 支出額

(修正)金參萬六千九百拾五圓

「金壹萬千八百四拾圓

明治四十二年 度 支出額(修正削除)

農事ノ改良進歩ヲ圖ルハ刻下ノ急務ニシテ從テ農業教育ノ忽ニスヘカラサルヤ言フ俟タズ殊ニ大都市附近ノ地ニ在テハ園藝ハ其ノ生産ノ主タル事業ナリ故ニ園藝學校ヲ新設シ之カ改良發達ヲ促進センカ爲メ「三ヶ年」「二ヶ年」ト修正ノ繼續事業トシテ其ノ完成ヲ期セントス

(修正理由) 速成ヲ期スルノ必要ヲ認ムルニ由ル(調査委員意見 委員長杉原榮三郎)

府第二十五號議案

積立金ノ設置及特別會計ニ關スル方法改

正ノ件……………修正

府立各學校ニ屬スル積立金ノ設置及特別會計ニ關スル件左ノ通改ムルモノトス 府立各學校ニ屬スル製產品賣拂代用品賣拂代作業益金入學試驗手数料(修正削除)及毎年度經常部ニ於ケル歳出ノ決算剩餘金竝之ヨリ生スル利子ハ一般經濟ニ編入セス當該學校ノ基本金トシ特別會計ヲ設ケテ蓄積スルモノトス (修正理由) 府第十二號議案ニ同シ(調査委員意見 委員長杉原榮三郎)

府第二十六號議案

積立金ノ設置及特別會計ニ關スル件……………可決

府立巢鴨病院ニ屬スル製產品賣拂代不用品賣拂代治療費辨償金及毎年度經常部ニ於ケル歳出ノ決算剩餘金及之ヨリ生スル利子ハ一般經濟ニ編入セス該病該ノ基本金トシ特別會計ヲ設ケテ蓄積スルモノトス

(原案説明) 府立巢鴨病院維持ノ資ニ供スル爲蓄積金ヲ設ケントスルニ由ル

府第二十七號議案 積立金ノ處分ニ關スル件……………可 決

一金百貳圓拾八錢

但決算上増減ヲ生スルトキハ其ノ額ニ依ル

右ハ陸軍大將子爵兒玉源太郎嗣子秀雄ヨリ府立巢鴨病院へ寄付ニ付該病院基本金トシテ蓄積セシヲ明治四十年年度ヨリ新設ニ係ル該病院積立金へ之ヲ合算シ基本金トシテ利倍増殖ヲ圖ルモノトス

明治三十八年度東京府歳入歳出決算書……………承認

行旅病人死亡人及精神病患者ニ關スル費用ヲ國庫支辨ニ移ス

ノ建議案……………可 決

(建議の大要) 行旅病人及行旅死亡人取扱法及精神病患者監護法に依て取扱つた取扱費若くは監護費が本人又は扶養義務者から辨償を得ざることが確定すれば結局救護監護又は取扱をした地の府縣に於て負擔しなければならぬ規定である。

この規定に基き、明治三十七年度に東京府が負擔する費用は、實に拾四萬五千圓であつて、全府縣の負擔額總計の百分の六十を超ゆるのみならず、將來は益々負擔が増加する趨勢である。斯様に巨額な負擔も、各府縣が同一の狀況に基くならば已むを得ざるも、本府は首府たる關係上、特に此等の事件が蝸集する實狀であり、殊にこれ等の事項は國家に屬すべき事務と思考するから、詮議を遂げて、國庫の負擔に移されたいと内務大臣に意見書を呈出する趣旨で、案は多數を以て可決した(議員長谷川吉次外六名發議)。

(附記) 本年を初回として、爾來毎年同一趣旨の意見書を議決呈出すること十餘年に及んだ。其の熱誠は竟に當局を動かし、大正八年に至て國庫から補助金を下付せらるゝことに決定した。國庫支辨の希望は達成し得なかつたが、補助と決定し

たので目的の一半は貫徹し得たものといふことが出来る。尙この建議に關しては、歴代の府會議員孰れも熱心であつたが、中にも最初の主張者として長谷川吉次、其後に於て木庭榮兩議員の如きは其の著しいものである。

小學校教員優遇ニ關スル件建議案……………可決

(建議の大要) 教育の普及向上を圖るには、優良なる小學校教員を得ることが急務である。然るに、現在に於ける該教員の待遇は決して佳良とは認められぬ。待遇が悪しければ優良教員を得難いから、先づ以て待遇を改善する一端として、市町村をして教員住宅を建設せしめ、土地の情況に依ては、住宅料支給を以て之に代ふることとし、而して、之れが實行獎勵の爲、府費より市町村に相當の補助を與ふるの計畫を進められたいと知事に意見書を呈出するので、案は多數を以て可決した議員徳岡梅吉外三名發議。

荒川筋河川改修工事ノ提案ヲ求ムル建議案……………可決

(建議の大要) 荒川筋千住町地先河川は、改修工事を行ふ必要ありと認むるから、適當の調査を遂げて提案されたいと知事に意見書を呈するので、案は多數を以て可決した議員松見文平外八名發議。

東京勸業博覽會々期延長ニ關スル建議案……………可決

(建議の大要) 東京勸業博覽會の會期は、明年四月より六月に至る九十日間の豫定であるが斯くては、折角の設備に對し期間短少に過ぐるの憾みあり、殊に時恰も春末から初夏にかけて地方は播種挿秧等最も農繁の季節であり、又各學校は夏期休業以前に當るので、生徒に觀覽せしむるに不便であるから、これ等の事情を斟酌して、豫定會期を更に五十日間程追加延長せられたいと知事に意見書を呈出するので、案は多數を以て可決した議員鈴木亮藏外一名發議。

ペスト豫防ニ關スル建議案……………可決

(建議の大要) 大阪神戸兩地のペスト病は未だ終熄に至らず、尙往々患者を發生し、有菌鼠族の續出する傾向がある。同地方から東京に輸送する貨物は、消毒の上發

送する由ではあるが、其の消毒は十分完全なりとは認め難い。明春東京勸業博覽會開設の曉には、内外多數の觀覽者が東京に集まるは必然である。其の際萬一にも病菌を輸入しペスト患者が発生したならば、啻に博覽會に影響するばかりでなく、衛生上實に寒心すべき重大事件と信ずるから、今日に於て特に嚴重なる豫防方法を講ずるは、最も必要とするところである。それには、各地方任意の豫防施設に委するのほ、自然周到を缺く虞れあるを以て、内務省の直轄として適當なる豫防消毒の方法を實施せられたいと内務大臣に意見書を呈出するので、案は多數を以て可決した(議員沼田辰五郎外四名發議)。

教育篤志家横川梅子表彰ニ關スル建議案……………可決

(建議の概要) 横川梅子は、八王子地方に女子高等普通教育機關の缺如せることを憂ひ、明治二十五年卒先して高等女學校程度の私立女學校を創立し、爾來十有五年間、經營に教授に其の全力を傾け、該教育に貢献せる功績實に多大なるものあり。これがため殆んど、資産を蕩盡し、經營困難を感ずるに至つたので、今回府立高等女學校を設立して、事實に於て該女學校を繼承することとなつたものである。依て、

適當の方法を以て、同人の教育上に致せる功績を表彰せられたいと知事に建議するので、案は多數を以て可決した(議員杉原榮三郎發議)。

水上警察ノ設備擴張ニ關スル建議案……………可決

(建議の概要) 近時、府下各川、品川灣内船舶の交通著しく頻繁となつた結果、水上に於ける犯罪遭難其他衛生事故が非常に増加した。然るに、之に對する水上警察力は極めて微弱なるの觀がある。即ち、水上警察署が一署で巡查定員七十餘人、其の管轄區域は、府内各川及品川灣一圓に涉り、巡察方面は遠く二十哩以上に及ぶ。之が爲め巡察回数は、遠隔の場所は一ヶ月に一二回、近接の船舶輻輳の河川でも一日一回以上を巡察するは至難である。而して品川灣に於ける平均一ヶ年遭難死亡者五十餘人、覆没船舶約二十艘、水上署に於て逮捕する各種犯罪者人員は、市内樞要警察署に比して多數なるを常とする。斯の如く、其の管轄區域の廣大にして、事故の頻繁なるに拘らず、設備は不完全である爲め、船員や水運業者の被る損害が頗る多大である。當局は速に適當の方法を以て、其の設備の完全を圖られんことを望むと知事に建議するので、案は多數を以て可決した(議員袴田瀧三郎外四名發議)。

この建議は更に警視廳に移牒した。

通常市部會

本會は、明治三十九年十二月一日午後一時五十七分に開議し會議三日間に涉り、十二月十四日午後三時四十五分議事終了散會した。

杉原議長は、會議の同意を得て、日下部三之介、酒井泰を會議録署名議員に選定した。

十二月十四日議事全く終了するや、杉原議長は起ちて、我々議員の任期は尙明年九月迄存續するも、通常市部會としてはこの會を以て最終とする。四箇年の間議長の職を汚がし、格別の失態もなく経過するを得たのは、議員諸君の援助に因るところであつて、感謝に堪へないと挨拶して散會を告げた。

議案

- 第一號議案部 明治四十年東京府市部營業稅雜種稅課目課額……………可決
- 第二號議案部 明治四十年東京府市部歳入歳出豫算書……………修正
- 第三號議案部 明治四十年東京府市部請願巡查費徵收額……………可決

- 第四號議案部 府稅賦課規則中改正ノ件……………可決
- 第五號議案部 不動產買受ノ件……………可決
- 第六號議案部 不動產賣却ノ件……………可決
- 第七號議案部 積立金ノ設置及特別會計ニ關スル方法改正ノ件……………可決
- 第八號議案部 明治四十年東京府職工學校基本金歳入豫算書……………可決
- 第九號議案部 明治四十年東京府市部學資金歳入豫算書……………可決
- 第十號議案部 明治四十年東京府市部積立金歳入豫算書……………可決
- 第十一號議案部 積立金及特別會計設置規程……………修正
- 第十二號議案部 自明治四十一年度東京府市部警察廳舍建築費繼續年期及支出方法……………可決
- 明治三十八年度東京府市部歳入歳出決算書……………承認

議決摘要

- 第一號議案部 明治四十年東京府市部營業稅雜種稅課目課額……………可決

雜種稅

第五章 府會の行動 明治三十九年の府會

一湯屋 個數一個ニ付 年稅 金參錢
 一自動車 年稅 金參拾圓

(原案説明) 前年度ノ課目課額ニ比シ變更セシモノヲ舉クレハ湯屋稅ハ他ノ課率ニ比シ低キニ過クルヲ以テ之ヲ高メタルト又自動車ニハ自轉車稅ヲ賦課セルモ近時自動車數ノ増加セルノミナラス自轉車稅ト均衡ヲ失セルヲ以テ新ニ自動車稅ヲ設ケ其ノ他ハ前年ノ例ヲ襲踏セリ

市部 第二號議案部 明治四十年度東京府市部歲入歲出豫算書……………修正

歲入

經常部

- 第一款 地租 金拾參萬五千百拾四圓
- 第一項 地租 金拾參萬五千百拾四圓
(地租壹圓ニ付五拾錢)
- 第二款 營業稅 金五萬九千八百六拾圓九拾六錢
- 第一項 商業稅 金參萬九千五百五拾六圓八拾四錢
- 第二項 工業稅 金貳萬參百四圓拾貳錢
- 第三款 雜種稅 金參拾四萬貳千貳百參拾壹圓九拾參錢

第四款 營業稅附加稅 金貳拾五萬六千七百圓

第一項 營業稅附加稅 金貳拾五萬六千七百圓
(國稅額ノ十分ノ二)

第五款 礦業稅附加稅 金千百拾七圓

第一項 礦業稅附加稅 金千百拾七圓
(國稅額ノ百分ノ十)

第六款 家屋稅 (修正)金五拾參萬參千六百參拾六圓八拾九錢八厘

第一項 家屋稅 金五拾參萬參千六百參拾六圓八拾九錢八厘
(修正)金五拾參萬參千六百參拾六圓八拾九錢八厘
(二個ニ付參錢八厘)
(二個ニ付四錢)

(修正理由) 聯帶豫算ノ修正ニ伴フニ由ル

第七款 財產收入 金千圓

第一項 動產收入 金千圓

第八款 國庫下渡金 金四拾八萬六千貳拾六圓五拾八錢四厘

第一項 警察費下渡金 金四拾八萬六千貳拾六圓五拾八錢四厘

第九款 雜收入 金拾四萬千八百八拾四圓參拾四錢貳厘

第十款 市郡連帶市部收入額 金貳拾六萬七千七百六拾圓參拾參錢四厘

第一項 市郡連帶市部收入額 金貳拾六萬七千七百六拾圓參拾參錢四厘
經常部合計金貳百拾九萬八千六百五拾圓拾四錢八厘

(修正)金貳百貳拾貳萬五千參百參拾壹圓九拾九錢

臨時部

第一款 繰越金 金千圓

第一項 前年度繰越金 金千圓

第二款 國庫補助金 金九千百貳拾壹圓六拾六錢七厘

第一項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金千六百六拾六圓六拾六錢七厘

第二項 教育費補助金 金貳千五百圓

第三項 警察費補助金 金四千八百六拾六圓

第四項 警察廳舎建築修繕費補助金 金八拾九圓

第三款 財產賣拂代 金貳萬參千貳百八拾圓

第一項 不動產賣拂代 金貳萬參千貳百八拾圓

臨時部合計金參萬參千四百壹圓六拾六錢七厘

歲入總計金貳百貳拾參萬貳千五拾壹圓八拾壹錢五厘

(修正)金貳百貳拾五萬八千七百參拾參圓六拾五錢七厘

歲出

經常部

第一款 警察費 金百拾八萬參千五百八拾七圓七拾壹錢七厘

第一項 俸給及諸給 金八拾八萬五千參拾參圓六拾錢

巡查二千八百八十一人月俸拾六圓此金五拾五萬參千五百五拾貳圓、百人月俸拾六圓十ヶ月分此金壹萬六千圓、百人月俸拾六圓八ヶ月分此金壹萬貳千八百圓、百人月俸拾六圓六ヶ月分此金九千六百圓、百人月俸拾六圓四ヶ月分此金六千四百圓、百人月俸拾六圓二ヶ月分此金參千貳百圓、技手八人月俸參拾圓此金貳千八百八拾圓、書記百八十四人月俸拾四圓此金參萬九百拾貳圓、巡查宿料二千八百八十一人分及増員五百人分月額貳圓此金七萬五千四百四拾四圓、諸傭給消防九萬貳千四百圓參拾五錢、巡查給助六萬貳千圓其他手當旅費、惠與等

(原案説明) 前年度ニ比シ巡查五百九十名ヲ逐次増員シ及警察分署巡查派出所ヲ増設スルモノトシ之ニ伴フ諸費等拾壹萬圓餘ヲ増加計上セリ

第二項 廳費 金貳拾九萬八千五百五拾四圓拾壹錢七厘

- 第二款 警察廳舎修繕費 金壹萬八千五百九拾七圓貳拾九錢八厘
 - 第一項 修繕費 金壹萬八千五百九拾七圓貳拾九錢八厘
- 第三款 教育費 金壹萬五千九百九拾八圓七拾七錢
 - 第一項 職工學校費 金壹萬五千九百九拾八圓七拾七錢
- 第四款 府費取扱費 金壹萬五千四百拾圓
 - 第一項 徵收費 金壹萬五千四百拾圓
- 第五款 府吏員費 金貳千九百參拾參圓
 - 第一項 吏員費 金貳千九百參拾參圓
- 第六款 財產費 金五圓
 - 第一項 管理費 金五圓
- 第七款 府社費 金七拾圓
 - 第一項 府社費 金七拾圓
- 第八款 豫備費 金五千圓
 - 第一項 豫備費 金五千圓
- 第九款 市郡分賦市部負擔額 金八拾八萬千貳百九拾七圓六拾八錢六厘

(修正)金九拾萬八千七拾六圓七拾壹錢壹厘

第一項 市郡分賦市部負擔額 金八拾八萬千貳百九拾七圓六拾八錢六厘

(修正)金九拾萬八千七拾六圓七拾壹錢壹厘

(修正理由) 聯帶豫算ノ修正ニ伴フニ由ル

經常部合計金貳百拾貳萬貳千八百九拾九圓四拾七錢壹厘

(修正)金貳百拾四萬九千六百七拾八圓四拾九錢六厘

臨時部

第一款 警察廳舎建築費 金七萬參千百七拾七圓貳拾四錢五厘

第一項 建築費 金七萬參千百七拾七圓貳拾四錢五厘

(原案説明) 昨年九月府下騷擾ノ際燒失セル廳舎ノ建築ヲ要スルト巡查派出所ノ増設ヲ要スルトニ由ル

第二款 市町村傳染病豫防補助費 金壹萬圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金壹萬圓

第三款 警察廳舎建築費本年度支出額 金壹萬九千七百參拾九圓貳拾錢

第一項 建築費本年度支出額 金壹萬九千七百參拾九圓貳拾錢

(原案説明) 市部第十二號議案ニ伴フニ由ル

臨時部合計金拾萬貳千九百拾六圓四拾四錢五厘

歲出總計金貳百貳拾貳萬五千八百拾五圓九拾壹錢六厘

(修正)金貳百貳拾五萬貳千五百九拾四圓九拾四錢壹厘

市部 第三號議案

明治四十年度東京府市部請願巡查費徵收額……………可決

一金貳拾六圓

市部巡查一人一ヶ月分

市部 第四號議案

府稅賦課規則中改正ノ件……………可決

東京府市部ニ屬スル府稅賦課規則中左ノ通改ムルモノトス

第三章第十六條「營業稅附加稅」ヲ「營業稅附加稅及鑛業稅附加稅」ト改ム

附 則

此ノ改正ハ明治四十年一月ヨリ施行ス

(原案説明) 明治三十九年七月內務省告示第六十八號ヲ以テ府縣稅直接稅ノ種類中鑛業稅附加稅ヲ追加セラレタルヲ以テ新ニ本稅目ヲ設ケントス之レ本案ノ改正ヲ要スル所以ナリ

市部 第五號議案

不動産買受ノ件……………可決

東京市下谷區車坂町十八番地

一市街宅地五百二十坪八勺

此買受豫定代金壹萬五千六百貳圓四拾錢 但一坪ニ付參拾圓

右地所下谷警察署敷地トシテ買受クルモノトス

(原案説明) 下谷警察署建築ニ伴ヒ敷地ノ購入ヲ要スルニ由ル

市部 第六號議案

不動産賣却ノ件……………可決

東京市下谷區上野西黒門町三番地

一下谷警察署敷地四百十七坪五合 但一坪ニ付金五拾圓

此豫定價格金貳萬八百七拾五圓

一下谷警察署建物

煉瓦造平家四十六坪五合 但一坪ニ付金貳拾圓

木造平家三十五坪 但一坪ニ付金七圓

第五章 府會の行動

明治三十九年の府會

煉瓦塀八十二間 但一間ニ付拾五圓

此豫定價格金貳千四百五圓

合計金貳萬參千貳百八拾圓

右賣却スルモノトス

(原案説明) 下谷警察署ハ新ニ敷地購入ノ上廳舎新築ノ見込ナルヲ以テ不用ニ屬スル舊敷地及建物ヲ賣却セントスルニ由ル

市部 第七號議案 積立金ノ設置及特別會計ニ關スル方法改正ノ件……可 決

府立職工學校ニ屬スル積立金ノ設置及特別會計ニ關スル件左ノ通改ムルモノトス

府立職工學校ニ屬スル製產品賣拂代、用品賣拂代、作業益金及毎年度經常部ニ於ケル歳出ノ決算剩餘金竝之ヨリ生スル利子ハ一般經濟ニ編入セス該校ノ基本金トシ特別會計ヲ設ケテ蓄積スルモノトス

市部 第八號議案 明治四十年東京府職工學校基本金歳入豫算書……可 決

市部 第九號議案 明治四十年東京府市部學資金歳入豫算書……可 決

市部 第十號議案 明治四十年東京府市部積立金歳入豫算書……修正

歳入

第一款 積立金 金七千貳百參拾參圓

(修正)金五千百六拾六圓

第一項 決算剩餘繰入 金七千圓

(修正)金五千圓

第二項 財産收入 金貳百參拾參圓

(修正)金百六拾六圓

歳入合計金七千貳百參拾參圓

(修正)金五千百六拾六圓

(修正理由) 市部第十一號議案ノ修正ニ伴フニ由ル

市部 第十一號議案 積立金及特別會計設置規程……修正

第一條 非常災害ニ因リ府ノ經濟並市部ノ經濟ニ屬スル建物ノ建設復舊費ニ充ツル爲積立金ヲ設置ス

第二條 前條ノ積立金ハ參拾五萬圓ヲ限度トシ毎年度決算殘金ノ内「七千圓」五千圓「ト修正」ヲ積立ツルモノトス

前項ノ決算殘金「七千圓」五千圓「ト修正」未滿ナルトキハ其ノ全部ヲ積立金ニ充ツ（修正理由）本案ハ前年府會ヨリ府立學校等ニ火災保險ヲ附スヘク建議シタルニ對シ調査ノ結果其精神ヲ納レ之ニ代ハル方法トシテ提出セラレタルモノニシテ固ヨリ之ニ異議ナキモ先ツ以テ毎年度ノ積立額七千圓ヲ五千圓ニ削減シ殘餘ノ貳千圓ハ特ニ危險ノ虞アル學校ヲ火災保險ニ附スルモノトシ之レカ保險料ニ充當スル見込ヲ以テ希望條件ヲ附シ修正スルモノトス（調査委員意見）委員長梶田瀧三郎

第三條 積立金ヨリ生スル收入ハ總テ積立金ニ編入ス

第四條 本積立金ハ明治四十四年度迄据置クモノトス

附 則

第六條 本積立金ハ明治三十九年度決算殘金ヨリ之ヲ施行ス

市第十二號議案部

自明治四十一年度 至明治四十一年度 東京府市部警察廳舍建築費繼續年期及支出方法……………可決

一金四萬參千七百貳拾九圓九拾貳錢

電話架設費

內 譯

金壹萬九千七百參拾九圓貳拾錢

明治四十年支出額

金貳萬參千九百九拾圓七拾貳錢

明治四十一年度支出額

右ハ警察署警察分署交番所間ニ電話ヲ架設シ警察事務ノ敏活ヲ圖ラントスルニ在リ而シテ經濟ノ如何ヲ考量シ之ヲ二ヶ年ノ繼續事業トシテ其ノ竣成ヲ期セントス

（附帶決議）各警察分署ニハ特設電話ヲ架設シ既設ノ局設電話ハ之ヲ廢止スルノ提案ナルモ斯クテハ人民ノ不便尠カラサルノミナラス警察事務ノ敏活ヲ缺クヲ以テ特設電話ノ外局設電話ニモ加入スルノ措置ヲ採ラレンコトヲ要求スルモノトス（調査委員意見）委員長齋藤孝治

明治三十八年度東京府市部歲入歲出決算書……………承認

通常郡部會

本會は、明治三十九年十二月一日午後一時五十九分に開議し、會議三日間に涉り、十二月十七日午後四時三十五分議事終了散會した。

瀨沼議長は、會議の同意を得て井田忠信、松井寅太郎を會議録署名議員に選定した。

會議の最終日に、井田忠信が、副議長を辭職したので、瀨沼議長は會議に諮かり、直ちに補闕選舉を行ひ、指名推選を以て、伊藤祐治が當選した。

議案 附諮問案

- 第一號 議案部 明治四十年度東京府郡部營業稅雜種稅課目課額……………可決
- 第二號 議案部 明治四十年度東京府郡部歳入歳出豫算書……………修正
- 第三號 議案部 明治四十年度東京府郡部請願巡查費徵收額……………可決
- 第四號 議案部 自明治四十年度東京府郡部土木費繼續年期及支出方法……………可決
- 第五號 議案部 府稅賦課規則中改正ノ件……………可決
- 第六號 議案部 不動産買受ノ件……………可決

- 第七號 議案部 不動産賣却ノ件……………可決
- 第八號 議案部 明治四十年度東京府郡部恩賜金歳入歳出豫算書……………可決
- 第九號 議案部 明治四十年度東京府郡部救恤資金歳入歳出豫算書……………可決
- 第十號 議案部 明治四十年度東京府郡部學資金歳入豫算書……………可決
- 第十一號 議案部 明治四十年度東京府郡部衛生資金歳入豫算書……………可決
- 第十二號 議案部 明治四十年度東京府郡部積立金歳入豫算書……………修正
- 第十三號 議案部 積立金及特別會計設置規程……………修正
- 郡諮問第一號 府費支辨道ニ編入及變更ノ件……………答申議決
- 明治三十八年度東京府郡部歳入歳出決算書……………承認

議決摘要

- 第一號 議案部 明治四十年度東京府郡部營業稅雜種稅課目課額……………可決

雜種稅

一市場

南多摩郡八王子町織物市場

月稅 金四拾圓

一 自動車
一 狩獵

年稅 金參拾圓
本稅 十分ノ二

(原案説明) 前年度ノ課目課額ニ比シ變更セシモノヲ舉クレハ市場稅ノ内南多摩郡八王子町織物市場ハ近來ノ狀況ニ徴シ減稅シタルト稅源ニ供スル爲メ新ニ自動車稅ヲ設ケ又狩獵稅ハ低減ヲ要スルニ依リ之ヲ改メタル等トス

郡 第二號議案部

明治四十年年度東京府郡部歲入歲出豫算書……………修正

歲入

經常部

- 第一款 地租 割 金拾八萬參千參百六拾壹圓
- 第一項 地租 割 金拾八萬參千參百六拾壹圓
(地租壹圓ニ付五拾錢)
- 第二款 營業稅 金貳萬七千七百七拾七圓拾參錢
- 第一項 商業稅 金壹萬九千九百五圓參拾七錢
- 第二項 工業稅 金七千貳百七拾壹圓七拾六錢
- 第三款 雜種稅 金拾七萬八千七百七拾貳圓壹錢

第四款 營業稅附加稅 金參萬五百貳拾圓

第一項 營業稅附加稅 金參萬五百貳拾圓
(國稅額ノ十分ノ二)

第五款 鑛業稅附加稅 金百貳拾參圓

第一項 鑛業稅附加稅 金百貳拾參圓
(國稅額ノ百分ノ十)

第六款 家屋稅 (修正)金拾參萬五千四百八拾九圓貳拾六錢

第一項 家屋稅 金拾參萬貳千拾六圓五拾六錢六厘
(八王子町分八、九八三圓五〇其他ノ各町村分一個ニ付七錢八厘)

(修正理由) 聯帶豫算ノ修正ニ伴フニ由ル
(八王子町分九、三〇一圓五〇其他ノ各町村分一個ニ付八錢)

第七款 戶數割 金拾六萬四百四拾八圓七拾錢

(修正)金拾六萬六千百貳拾八圓參拾錢
(戶ニ付貳圓貳拾六錢)

第一項 戶數割 金拾六萬四千四拾八圓七拾錢
(戶ニ付貳圓貳拾六錢)

(修正理由) 聯帶豫算ノ修正ニ伴フニ由ル
(二個ニ付貳圓參拾四錢)

第八款 財產收入 金參百五拾八圓參拾錢

第五章 府會の行動

明治三十九年の府會

第一項 不動產收入 金七拾圓

第二項 動產收入 金參拾八圓參拾錢

第三項 特別經濟繰入 金貳百五拾圓

第九款 國庫下渡金 金九萬貳千參百貳拾貳圓八拾八錢六厘

第一項 警察費下渡金 金九萬貳千參百貳拾貳圓八拾八錢六厘

第十款 雜收入 金六萬五千五百八拾參圓拾壹錢

第十款 市郡連帶郡部收入額 金五萬八千六百八拾六圓四拾壹錢七厘

第一項 市郡連帶郡部收入額 金五萬八千六百八拾六圓四拾壹錢七厘

經常部合計金九拾貳萬九千參百六拾九圓拾壹錢九厘

(修正)金九拾參萬八千五百貳拾壹圓四拾壹錢參厘

臨時部

第一款 繰越金 金千圓

第一項 前年度繰越金 金千圓

第二款 國庫補助金 金參千參百圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金千圓

第二項 農事試驗場補助金 金貳千參百圓

第三款 財產賣拂代 金壹萬貳百六拾五圓四拾錢

第一項 不動產賣拂代 金壹萬貳百六拾五圓四拾錢

千住警察署移轉建築ニ伴ヒ不用敷地建物賣拂代

臨時部合計金壹萬四千五百六拾五圓四拾錢

歲入總計金九拾四萬參千九百參拾四圓五拾壹錢九厘

(修正)金九拾五萬參千八拾六圓八拾壹錢參厘

歲出

經常部

第一款 警察費 金貳拾貳萬參千八百拾五圓壹錢四厘

第一項 俸給及諸給 金拾八萬九百四拾六圓貳拾錢

巡查六百四十四人月俸拾六圓此金拾貳萬參千六百四拾八圓三十三人月俸拾

六圓六ヶ月分此金參千六百六拾八圓書記七十九人月俸拾四圓此金壹萬參千貳

百七拾貳圓巡查宿料六百四十四人分月額壹圓參拾五錢此金壹萬四百參拾貳

圓八拾錢三十三人分月額壹圓參拾五錢此金貳百六拾七圓參拾錢巡查給助壹

萬參千圓其他手當旅費・惠與・諸備給等

(原案説明) 巡查三十三人増員及派出所増設ニ伴フ諸費ヲ計上セルト書記工夫等ノ増給
其他増額ヲ見込ミタリ

第二項 廳 費 金四萬貳千八百六拾八圓八拾壹錢四厘

第二款 警察廳舍修繕費 金貳千九百貳拾四圓

第一項 修繕費 金貳千九百貳拾四圓

第三款 土木費 金拾四萬七千四百四拾八圓五拾四錢

第一項 道路橋梁費 金拾參萬九千六百貳拾圓五拾四錢

第二項 治水堤防費 金七千八百貳拾八圓

第四款 郡廳舍修繕費 金參百七拾六圓

第一項 修繕費 金參百七拾六圓

第五款 郡役所費 金四萬五千四百八拾五圓貳拾錢

第一項 俸給及諸給 金參萬七千八百參拾貳圓八拾錢

書記九十一人月俸貳拾圓此金貳萬壹千八百四拾圓視學八人月俸參拾七圓五
拾錢此金參千六百圓其他雇員給旅費退官賜金死亡賜金惠與・諸備給等

第二項 廳 費 金七千六百五拾貳圓四拾錢

第六款 救育費 金千八百五拾貳圓拾六錢五厘

第一項 救助費 金千八百五拾貳圓拾六錢五厘

第七款 諸達書及揭示諸費 金拾六圓

第一項 令達諸費 金拾六圓

第八款 勸業費 金貳萬四百拾壹圓貳拾參錢六厘

第一項 農事試驗場費 金壹萬七千參百七拾九圓六拾五錢六厘

第二項 勸業諸費 金九百六圓七錢

第三項 耕地測量費 金貳千貳拾五圓五拾壹錢

第九款 府費取扱費 金壹萬五千貳百六拾圓

第一項 徵收費 金壹萬五千百八拾圓

第二項 滯納處分費 金八拾圓

第十款 府吏員費 金參千九百參圓

第一項 吏員費 金參千九百參圓

第十款 財產費 金拾圓

第一款 管 理 費 金拾圓

第三款 府 社 費 金四拾圓

第一款 府 社 費 金四拾圓

第三款 豫 備 費 金五千圓

第一款 豫 備 費 金五千圓

第五款 市郡分賦郡部負擔額 金參拾壹萬參千五拾圓拾六錢九厘

(修正)金參拾貳萬貳千參百九拾五圓拾四錢四厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金參拾壹萬參千五拾圓拾六錢九厘

(修正)金參拾貳萬貳千參百九拾五圓拾四錢四厘

(修正理由) 聯帶豫算ノ修正ニ伴フニ由ル

經常部合計金七拾七萬九千五百九拾壹圓參拾貳錢四厘

(修正)金七拾八萬八千九百參拾六圓貳拾九錢九厘

臨時部

第一款 警察廳舍建築費 金壹萬七千五百八拾參圓貳拾錢

第一項 建 築 費 金壹萬七千五百八拾參圓貳拾錢

第二款 土 木 費 金六萬八千八百參圓

第一項 道 路 橋 梁 費 金五萬九千九百五拾八圓

第二項 治 水 堤 防 費 金壹萬六千八百四拾五圓

第三款 郡市町村土木補助費 金四萬貳千參百九拾壹圓參拾錢

第一項 道 路 橋 梁 費 補助 金貳萬六千四百五拾八圓七拾錢

第二項 治 水 堤 防 費 補助 金四百七拾五圓六拾錢

第三項 以 樋 費 補助 金壹萬五千四百五拾七圓

第四款 衛生及病院補助費 金千七百拾九圓

第一項 病 院 補 助 費 金千七百拾九圓

第五款 市町村傳染病豫防補助費 金六千圓

第一項 町村傳染病豫防補助費 金六千圓

第六款 郡廳舍建築費 金百八圓

第一項 建 築 費 金百八圓

第七款 勸 業 費 金千貳百貳拾五圓四拾七錢八厘

第一項 農 事 試 驗 場 費 金千貳百貳拾五圓四拾七錢八厘

第八款 勸業補助費 金四千百圓

第一項 勸業補助費 金四千百圓

府農會補助四千圓、實業練習生補助百圓

第九款 町村警備補助費 金百拾圓

第一項 町村警備補助費 金百拾圓

第十款 土木費本年度支出額 金壹萬九千百貳拾圓

第一項 道路橋梁費本年度支出額 金壹萬九千百貳拾圓

臨時部合計金拾六萬千百五拾九圓九拾七錢八厘

歲出總計金九拾四萬七百五拾壹圓參拾錢貳厘

(修正)金九拾五萬九拾六圓貳拾七錢七厘

郡部 第三號議案 明治四十年年度東京府郡部請願巡查費徵收額……………可決

一金貳拾五圓五拾錢 郡部巡查一人一ヶ月分

郡部 第四號議案 自明治四十年年度 東京府郡部土木費繼續年期及支

出方法……………可決

一金八萬貳千七百圓

道路橋梁費

內譯

金壹萬九千百貳拾圓 明治四十年年度支出額

金壹萬九千貳拾圓 明治四十一年度支出額

金壹萬九千百四拾圓 明治四十二年度支出額

金壹萬貳千六百六拾圓 明治四十三年度支出額

金壹萬貳千六百六拾圓 明治四十四年度支出額

南多摩郡圖師道及西多摩郡五日市青梅往還ハ坂路急峻屈曲甚シク且幅員狹隘ニシテ交通頗ル不便ナルニ依リ之カ改修施工ノ必要アリ然ルニ其ノ改修費多額ヲ要スルヲ以テ負擔ノ度合ヲ考量シ之ヲ五ヶ年ノ繼續事業トシテ其ノ竣成ヲ期セントス

郡部 第五號議案 府稅賦課規則中改正ノ件……………可決

東京府郡部ニ屬スル府稅賦課規則中左ノ通改ムルモノトス

第三章第二十條中「營業稅附加稅」ヲ「營業稅附加稅及鑛業稅附加稅」ト改ム

第二十一條中「南葛飾郡」ノ末ニ「大木村」ヲ加フ

附 則

此ノ改正ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

(原案説明) 第三章第二十條中ノ改正ハ明治三十九年内務省告示第六十八號ヲ以テ府縣直接税ノ種類中鑛業税附加税ヲ追加セラレタルヲ以テ新ニ本税目ヲ設ケントシ第二十一條ノ改正ハ南葛飾郡大木村ハ近時工業ノ發達ニ伴ヒ各種ノ工場興リ爲ニ現住者ノ移動頻繁ニシテ又借家住居及寄留ノ者多ク從テ戸數割トシテ賦課スルトキハ徵收上煩雜ナルヲ以テ戸數割ヲ改メテ家屋税ヲ施行セントスルニ由ル

郡 第六號議案部 不動産買受ノ件……………可 決

南足立郡千住町一丁目九番地

一市街宅地五百七十二坪六合七勺

此買受豫定代金五千七百貳拾六圓七拾錢 但一坪ニ付拾圓

右地所千住警察署敷地トシテ買受クルモノトス

(原案説明) 千住警察署建築ニ伴ヒ敷地ノ購入ヲ要スルニ由ル

郡 第七號議案部 不動産賣却ノ件……………可 決

北豊島郡南千住町大字南千住七十五番地

一千住警察署敷地三百六十八坪九合五勺

此豫定價格七千參百七拾九圓 但一坪ニ付貳拾圓

南足立郡千住町一丁目九番地

一同 署敷地百八十坪

此豫定價格貳千百六拾圓 但一坪ニ付拾貳圓

一同 署建物 五 棟

此豫定價格七百貳拾六圓四拾錢

右賣却スルモノトス

(原案説明) 千住警察署ハ新ニ敷地購入ノ上廳舎新築ノ見込ナルヲ以テ其ノ敷地剩餘ニ屬スル分竝ニ屬スル舊敷地及建物ヲ賣却セントスルニ由ル

郡 第八號議案部 明治四十年東京府郡部恩賜金歳入歳出豫算書……………可 決

郡 第九號議案部 明治四十年東京府郡部救恤資金歳入歳出豫算書……………可 決

第十號議案部 明治四十年東京府郡部學資金歲入豫算書……………可決

第十一號議案部 明治四十年東京府郡部衛生資金歲入豫算書……………可決

第十二號議案部 明治四十年東京府郡部積立金歲入豫算書……………修正

歲入

第一款 積立金 金參千百圓

(修正)金貳千六拾六圓

第一項 決算剩餘繰入金 金參千圓

(修正)金貳千圓

第二項 財産收入 金百圓

(修正)金六拾六圓

歲入合計金參千百圓

(修正)金貳千六拾六圓

(修正理由) 郡部第十三號議案ノ修正ニ伴フニ由ル(議員谷岡慶治動議)

郡部第十三號議案部 積立金及特別會計設置規程……………修正

府縣制第九十八條第百二十三條ニ依リ積立金及特別會計設置規程左ノ通定ムルモノトス

第一條 非常災害ニ因リ府ノ經濟竝郡部經濟ニ屬スル建物建設復舊費ニ充ツル爲積立金ヲ設置ス

第二條 前條ノ積立金ハ拾五萬圓ヲ限度トシ毎年度決算殘金ノ内參千圓(貳千圓)ト修正ヲ積立ツルモノトス

前項決算殘金參千圓(貳千圓)ト修正未滿ナルトキハ其ノ全部ヲ積立金ニ充ツ(修正理由) 市部第十一號議案第二條ノ修正ニ倣フヲ適當ト認ムルニ由ル(議員谷岡慶治動議)

第三條 積立金ヨリ生スル收入ハ總テ積立金ニ編入ス

第四條 本積立金ハ明治四十四年度迄据置クモノトス

第五條 本積立金ハ特別會計トス

第五章 府會の行動 明治三十九年の府會

附則

第六條 本積立金ハ明治三十九年度決算殘金ヨリ之ヲ施行ス

郡 諮問第一號部 府費支辨道ニ編入及變更ノ件……………答申議決

府費支辨道編入ノ路線

名稱	郡名	延長	幅	現在道路ノ資格及名稱	路	線
六郷往還	荏原	一、四七〇 <small>間</small>	一五 <small>間</small>	六補郷助道	荏原郡矢口村ニ於テ池上道ヨリ分岐シ六郷村ニテ鐵道ヲ横切リ東海道ニ至ル	
二子往還	荏原	一、七二〇	一七	二同子道	豐多摩郡代々幡村ニ於テ青山往還ヨリ分岐シ駒場道、荏原郡世田ヶ村瀧坂道ヲ經テ窪窪道ヨリ右ニ岐レ同村地内黒駒道ニ至ル	
品川往還	北多摩 荏原	一、九二〇 一、三六〇	二一 二〇	補助道 大藏道井ノ頭分道ノ一	北多摩郡千歳村ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ荏原郡世田ヶ谷村ニテ黒駒道ニ至ル	
岩永往還	同	二七六	三〇	岩永新道	荏原郡目黒村ニ於テ下野毛道ヨリ分岐シ同村地先ニテ下丸子道ニ至ル	
猿樂往還	豐多摩	八三〇	二〇	補助道 猿樂助道	豐多摩郡澁谷村ニ於テ厚木街道ヨリ分岐シ厚木街道裏道ヲ横切リ馬引澤道ニ至ル	
新宿停車場往還	同	七四〇	二五	里道	同郡大久保村ニ於テ鹿島横町道ヨリ分岐シ北裏町及青梅街道ヲ横切リ新宿停車場脇通御厩往還ニ至ル	
井ノ頭往還	同	五九二〇	三〇	補助道 井ノ頭東道	同郡和田堀内村ニ於テ鍋屋横町道ヨリ分岐シ井ノ頭道ニ至ル	
千駄ヶ谷停車場往還	同	七二五	二六	里道	同郡千駄ヶ谷村ニ於テ四ツ谷道ヨリ分岐シ鐵道ヲ横切リ左右ニ岐レ左ハ千駄ヶ谷道右ハ再ヒ鐵道ヲ横切リ御厩往還ニ至ル	
八幡社往還	同	三八七五	三一	同	同郡千駄ヶ谷村ニ於テ宇田川道ヨリ分岐シ八幡社前ニ於テ左右ニ岐レ左ハ學校前通右ハ町内通千駄ヶ谷道ニ至ル	
橋場往還	北豐島	七六八〇	二〇	同	北豐島郡南千住町ニ於テ陸羽街道ヨリ分岐シ淺草區地方橋場町ニ至ル	
鎌倉往還	同	三、〇七四 <small>二</small>	二〇	補助道 鎌倉道阿彌陀道	同郡王子村ニ於テ豐島道ヨリ分岐シ岩槻街道ヲ經テ中仙道ヲ横切リ板橋間道ヲ經テ雜司ヶ谷道ニ至ル	
本所往還	南足立 南葛飾	四六九〇 二七五〇	二〇 二〇	同 本所道	南足立郡東淵江村ニ於テ流山道ヨリ分岐シ南葛飾郡龜青村ニテ陸前濱街道ニ至ル	
野田往還	南足立	一、二〇〇	二〇	同 野田道	南足立郡東淵江村大字北三谷ニ於テ西流山道ヨリ分岐シ大字大谷田ニテ野田道ニ至ル	
龜有停車場往還	南葛飾	一、三六三〇	二〇	同 字行德道	南葛飾郡龜青村ニ於テ帝釋道ヨリ分岐シ陸前濱街道ヲ横切リ龜有停車場ヲ經テ陸前濱街道ニ至ル	
扇橋往還	同	二四八七	二〇	里道	同郡砂村ニ於テ荻新田火葬場道ヨリ分岐シ深川區ニ至ル	
牛田垾往還	同 南足立	五三七〇 一一八〇	一六 一六	補助道 字牛田道	同郡南綾瀨村ニ於テ吾妻橋道ヨリ分岐シ南足立郡千住町ニテ綾瀨橋道ニ至ル	
小岩停車場往還	南葛飾	五八四〇	一五	里道	同郡小岩村小岩停車場ヨリ立石道ニ至ル	

明治三十九年の府會

名稱	郡名	延長	幅	現在道路ノ資格及名稱	路
金町農事試驗場往還	南葛飾	一四・四〇	一・五	里	南葛飾郡金町村ニ於テ金町停車場ヨリ分岐シ農事試驗場ニ至ル
小金井往還	北多摩	九六・一〇	二・五	同	北多摩郡武藏野村ニ於テ境停車場ヨリ分岐シ玉川上水ヲ渡リ埼玉縣ニテ五日市道ニ至ル
北多摩郡役所往還	同	四九・〇	二・〇	同	同郡府中町ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ郡役所ニ至ル
志木往還	同	七・七六〇	二・五	府補助道	同郡府中町ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ井ノ頭道五日市道、青梅街道ヨリ澤村山道ニ至ル
原町田往還	南多摩	七九・〇六六	二・〇	同	南多摩郡稻城村大字矢ノ口ニ於テ府中往還ヨリ分岐シ神奈川縣管内ヲ通過シ鶴川村ニ於テ日野往還及鶴川忠生道ヲ横切リ町田村ニ於テ州往還ニ至ル
大戸往還	同	二・八七三三	一・五	同	同郡境村大字相原ニ於テ埼玉往還ヨリ分岐シ淺川津久井道ニ至ル
安戸往還	同	二・八四五	二・五	同	南多摩郡八王子町ニ於テ準市街道ヨリ分岐シ淺川ニ至ル
小谷横町往還	同	一〇九・〇	四・〇	里	同郡八王子町字八日ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ字横山ニ於テ準市街道ニ至ル
學校往還	同	一七五・〇	三・五	同	同郡八王子町字八日ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ準市街道ヲ横切リ字馬乘學校前通ニ至ル
飯能往還	西多摩	四・三四一〇	一・五	補助道	西多摩郡青梅町青梅街道ヨリ分岐シ青梅秩父往還及箱根秩父道ヲ經テ埼玉縣界ニ至ル
福生停車場往還	同	五八七・五	二・〇	同	同郡東秋留村ニ於テ五日市道ヨリ分岐シ青梅八王子間往還ヲ横切リ玉川上水ヲ渡リ五日市扇町屋道ニ至ル
青梅北裏往還	同	三八五	二・〇	里	西多摩郡青梅町ニ於テ郡役所道ヨリ分岐シ青梅飯能道ヲ經テ青梅街道ニ至ル

名稱	郡名	延長	幅	現在道路ノ資格及名稱	路
日影通青梅往還	同	一六五・三	二・〇	補助道	同郡古里村小丹波ニ於テ青梅街道ヨリ分岐シ多摩川ヲ渡リ日影通青梅道ニ至ル
小河内往還	同	六四八・〇	一・五	同	同郡檜原村ニ於テ五日市道ノ終點ヨリ同村大字藤原ニテ北檜原道ニ至ル
上ノ原往還	同	四九・三〇	一・五	同	同郡同村ニ於テ五日市道ノ終點ヨリ分岐シ同村大字南郷ニテ甲州中街道ノ分岐南檜原道ニ至ル
三田飯能往還	同	三〇九・四〇	一・五	補助道	西多摩郡三田村ニテ青梅街道ヨリ分岐シ小會木村ニテ青梅秩父往還ニ接ス

府費支辨道ノ一部變更路線

名稱	郡名	延長	幅	現在道路ノ資格及名稱	路
本村道	同	九二〇・〇	一・五	同	北豐島郡赤塚村ニ於テ補助道徳丸道ヲ經志村ニテ本村道ニ合ス
西臺道	同	六二〇・〇	一・五	同	同郡志村大字西臺ニ於テ左右ニ岐レ左ハ荒川右岸ニ右ハ大字蓮根ニテ中仙道ニ至ル

府費補助道ニ編入及變更ノ件

府費補助道ニ編入路線

名稱	郡名	延長	幅	現在道路ノ資格及名稱	路
松原道	荏原	一五三・〇	二・〇	里	荏原郡世田ヶ谷村ニ於テ世田ヶ谷道ヨリ分岐シ同村地内瀧坂道ニ至ル
三宿道	同	四三〇・〇	一・五	同	同郡世田ヶ谷村ニ於テ瀧坂道ヨリ分岐シ下北澤道ヲ經同村ニテ厚木街道ニ至ル

名	稱	郡名	延長	幅	路現 資在	道格	路	線
蓮沼	道	荏原	二八三〇	二〇	里	道	在郡矢口村役場前ニ於テ矢口道ヨリ分岐シ 篠道ニ至ル	
新田	道	同	三六〇	二〇	同	同	同郡矢口村大字矢口字原ノ郷ニ於テ矢口道ヨ リ分岐シ篠道ニ至ル	
柏木	道	豐多摩	四二七〇	二〇	同	同	豐多摩郡淀橋町ニ於テ清水横町道ヨリ分岐シ 鹿島横町道ヲ經同村地内蜀江山東分道ニ至ル	
早稻田	道	同	二五〇〇	一八	同	同	同郡戸塚村ニ於テ馬場下道ヨリ分岐シ牛込區 鶴卷町ニ至ル	
御料地	道	同	六四九〇	二五	同	同	同郡千駄ヶ谷村ニ於テ千駄ヶ谷道ヨリ分岐シ 鐵道ヲ横切リ御料地門前ニテ右折シ代々幡村 ニテ天神橋ニ至ル	
宇田川	分道	同	一五〇	三〇	同	同	同郡同村ニ於テ八幡社往還ヨリ分岐シ原宿停 車場道ニ至ル	
高橋	道	北豐島	七六五〇	二〇	同	同	北豐島郡志村大字蓮根ニ於テ中仙道ヨリ分岐 シ西臺道ニ至ル	
字中	道	同	一五〇〇〇	二〇	同	同	同郡志村大字前野ニ於テ中仙道ヨリ分岐シ城 山道本村道ヲ經テ西臺道ニ至ル	
松山	道	同	一六二八〇	二〇	同	同	同郡志村ニ於テ下練馬道ヨリ分岐シ本村道ヲ 經テ大字蓮根ニ於テ西臺道ニ至ル	
志木	道	同	一、二四三〇	二〇	同	同	同郡大泉村ニ於テ富士道ヨリ分岐シ所澤道清 戶道ヲ横斷シ埼玉縣境ニ至ル	
長崎	道	同	四七五〇	二〇	同	同	同郡長崎村ニ於テ椎名道ヨリ分岐シ同村役場 前通リ桃並木道ニ至ル	
宮前	道	同	三八四〇	二〇	同	同	同郡上板橋村ニ於テ川越街道ヨリ分岐シ臺橋 道ニ至ル	
椎名町	道	同	一、〇七九四	二〇	同	同	同郡板橋町ニ於テ國道中仙道ヨリ分岐シ川越 街道ヲ横斷シ大谷道ニ至ル	

銃砲製造所	道	同	二七〇〇	二三	同	同	同郡王子村ニ於テ龜山道ヨリ分岐シ銃砲製造 所東門ヲ經テ左ハ王子道右ハ板橋間道ニ至ル
稻荷	道	同	三四〇〇	二五	同	同	同郡王子村ニ於テ岩淵街道ヨリ分岐シ大字下 十條地藏坂ニテ江頭道ニ合ス
江頭	道	同	一、二〇〇〇	二〇	同	同	同郡王子村ニ於テ王子道ヨリ分岐シ岩淵街道 ヲ横斷シ板橋東道ニ至ル
上新田	道	同	一、〇六一〇	二〇	同	同	同郡巢鴨町ニ於テ支辨道板橋間道ヨリ分岐シ 巢鴨間道ニ合シ中仙道ニ至ル
蟹ヶ窪	道	同	一、〇九八〇	二〇	同	同	同郡巢鴨町ニ於テ巢鴨監獄裏板橋間道ヨリ分 岐シ長崎村長崎道ニ至ル
築地	道	同	六七〇〇	二〇	同	同	同郡王子村ニ於テ豐島道ヨリ分岐シ學校前通 リ板橋東道ニ至ル
御殿	道	同	五〇〇〇	二〇	同	同	同郡下練馬村ニ於テ川越街道ヨリ分岐シ練馬 道ニ至ル
沼田	道	南足立	三三三〇	二〇	同	同	南足立郡江北村ニ於テ板橋道ヨリ分岐シ熊ノ 木道ニ至ル
鹿濱	道	同	六三〇〇	二〇	同	同	同郡江北村ニ於テ熊ヶ谷道ヨリ分岐シ板橋道 ニ至ル
五ノ橋東	道	南葛飾	一七三〇	二〇	同	同	南葛飾郡龜戸村ニ於テ千葉街道ヨリ分岐シ龜 戸停車場ニ至ル
矢切渡船場	道	同	一、二四九〇	一五	同	同	同郡龜戸村ニ於テ立石道ヨリ分岐シ行徳道ヲ 經テ千葉分道ニ至ル
平井	道	同	五五〇〇	一五	同	同	同郡平井村ニ於テ舊行徳街道ヨリ分岐シ逆井 道ニ至ル
字牛田	道	同	一、一八九〇	二〇	同	同	同郡南綾瀨村大字小菅吾妻橋道ヨリ分岐シ向 島道ニ至ル
深大寺	道	北多摩	一、三六三〇	三〇	同	同	北多摩郡神代村大字金子ニ於テ甲州街道ヨリ 分岐シ大字深大寺ニテ境停車場道ニ至ル

名	稱	郡名	延長	幅	現在	資格	路
上水縁道		北多摩	四〇〇〇	四〇	里	道	北多摩郡武蔵野村ニ於テ境停車場道ヨリ分岐シ玉川上水縁ニ沿ヒ埼玉縣ニ至テ五日市道ニ至ル
北裏道		同	二六四〇	一四	同	同	同郡府中町地内ニ於テ川越道ヨリ分岐シ郡役所前通リ國分寺停車場道ヲ横切リ志木往還ニ至ル
井ノ頭道		同	一、二〇〇	二〇	同	同	同郡千歳村ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ北高井戸道ヲ經テ井ノ頭道ニ至ル
厚木道		同	一、七五五	二五	同	同	同郡砦村大字宇奈根ニ於テ黒駒道ヨリ分岐シ六郷用水ヲ横切リ品川道ヲ經テ狛江村ニテ黒駒道ニ至ル
小金井境道		同	九三三	二〇	同	同	同郡小金井村ニ於テ志木往還ヨリ分岐シ武蔵野村境停車場ニ至ル
野鹽所澤道		同	九〇〇	二五	同	同	同郡清瀬村大字野鹽ニ於テ東村山道ヨリ分岐シ東村山村ニテ埼玉縣界ニ至ル
舊江戸道		同	二、六四〇	一五	同	同	同郡多摩村大字下染谷ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ同村學校脇ニ於テ左右ニ岐レ左ハ大字押立ニテ稻毛道ニ右ハ大字是政ニテ高井戸道ニ至ル
西府七生道		同	一、七〇〇	一五	同	同	同郡西府村大字本宿ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ大字四ツ谷ニテ左右ニ岐レ左ハ南多摩郡多摩村大字一ノ宮渡船場右ハ同郡谷保ニテ萬願寺渡船場ニ至ル
萬願寺道		南多摩	七五〇	二〇	同	同	南多摩郡日野町ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ萬願寺渡船場道ニ至ル
豐田停車場道		同	一、三九〇	一五	同	同	同郡由井村大字鎌水ニ於テ鎌水道了道ヨリ分岐シ由井村大字打越ニテ小野路道ニ至ル
落合立川道		同	七、三〇〇	一五	同	同	同郡多摩村ニ於テ落合道ヨリ分岐シ由木村ニテ府中相原道ヲ七生村ニテ日野往還ヲ横切リ日野町ニテ萬願寺渡船場道ニ至ル

八王子道	同	同	二、〇五〇	一五	同	同	同郡七生村ニ於テ高幡道ヨリ分岐シ淺川ヲ渡リ小宮村ニテ甲州街道ニ至ル
眞光寺三輪道	同	同	二、七三〇	一六	同	同	同郡鶴川村大字眞光寺ニ於テ五宿道ヨリ分岐シ日野往還ヲ横切リ大字三輪ヲ經テ神奈川縣界ニ至ル
横山八王子道	同	同	二、六四〇	一五	同	同	同郡横山村大字寺田ニ於テ中野道ヨリ分岐シ八王子町ニテ甲州街道ニ至ル
神奈川道	同	同	四五一〇	二〇	同	同	南多摩郡南村大字鶴間ニ於テ矢倉澤往還ヨリ分岐シ神奈川縣ニ於テ甲州往還ニ至ル
元八王子川村道	同	同	一、七三六	二〇	同	同	同郡元八王子村大字元八王子ニ於テ八王子道ヨリ分岐シ大字川村ニテ恩方淺川道ニ至ル
高月通八王子道	西多摩	同	三、四〇〇	一五	同	同	西多摩郡西多摩村ニ於テ上水堰口道ヨリ分岐シ青梅八王子道ヲ經テ高月通八王子道ニ至ル
霞小作道	同	同	九五〇	二〇	同	同	同郡霞村ニ於テ霞飯能道ヨリ分岐シ青梅往還ヲ横切リ村山道ニ至ル
千ヶ瀬青梅道	同	同	四〇〇〇	二〇	同	同	同郡調布村ニ於テ滿地通青梅道ヨリ分岐シ多摩川ヲ渡リ調布青梅道ニ至ル
檜原八王子道	南多摩	同	七九〇〇	二〇	同	同	西多摩郡戸倉村ニ於テ五日市道ヨリ分岐シ南多摩郡川口村ニテ五日市町八王子間往還ニ至ル

府費補助道ノ一部變更路線

名	稱	郡名	舊路線	變更路線	路
蛇窪道		荏原	延長 一、六〇〇 幅 一五	延長 四〇〇〇 幅 一〇	荏原郡平塚村字平塚耕地ニ於テ學校前通ヲ經テ下丸子道ニ至ル

名	稱	郡名	舊路線		變更路線		路
			延長	幅	延長	幅	
拜島道		北多摩	五二五 ^間	二〇	四五四 ^間	二〇	北多摩郡立川村ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ立川學校前ニ至ル
河邊小作道		西多摩	四六五〇	一七	三〇三〇	一五	西多摩郡西多摩村大字小作停車場ヨリ青梅八王子間往還ニ至ル

右道路ハ近來地方生産物ノ増加スルニ從ヒ交通頻繁ヲ加ヘ他ノ支辨道及補助道ト同一資格アルモノト認ムルニ依リ前記ノ通り之ヲ編入若ハ變更セントス
右其會ノ意見ヲ問フ

(答申) 諮問ノ趣旨ニ同意ス

明治三十八年度東京府郡部歳入歳出決算書……………承認

關係法令抜萃 (府會の行動に關する法令)

(註) こゝに掲げた法令は、明治三十二年より同三十九年迄に發布になつたものである。從て爾後變更廢止等になつたものもある。

○府縣制 (明治三十二年三月法律第六十四號)

第一章 總 則

第一條 府縣ハ從來ノ區域ニ依リ郡市及島嶼ヲ包括ス

第二條 府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 府縣ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣ノ境界ニ涉リテ郡市町村境界ノ變更アリタルトキハ府縣ノ境界モ亦自ラ變更ス所屬未定地ヲ市町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財産處分ヲ要スルトキハ内務大臣ハ關係アル府縣郡市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第四條 府縣會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ郡市ノ區域ニ依ル但シ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區ノ區域ニ依ル

第五條 府縣會議員ハ府縣ノ人口七十萬未滿ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬未滿ハ五萬ヲ加フ毎一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎一人ヲ増ス

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第五章 府會の行動 關係法令抜萃

第六條 府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額參圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同府縣内ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

左ニ掲クル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

- 一 其ノ府縣ノ官吏及有給吏員
 - 二 檢事警察官吏及收稅官吏
 - 三 神官僧侶其ノ他諸宗教師
 - 四 小學校教員
- 前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル

ル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

府縣ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ府縣ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第七條 府縣會議員ハ名譽職トス

府縣會議員ノ任期ハ四年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 府縣會議員中闕員アルトキ及府縣會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選舉ヲ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選舉セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第十三條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ選舉ノ日ヨリ少クトモ二十日前ニ之ヲ發スヘシ

第十四條 府縣會議員ノ選舉ハ郡市長之ヲ管理ス

第十八條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經投票簿ニ捺印シ投票スヘシ
選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ
投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス
投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

第二十三條 選舉會ハ郡役所市役所又ハ郡市長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ
前項選舉會ノ場所ハ郡市長豫メ之ヲ告示スヘシ

第二十七條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
- 二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ
- 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 府縣會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム
同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ投票ノ數多キ者投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ府縣知事ニ報告スヘシ
當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ
定期改選増員選舉補闕選舉等ヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選舉ニ當リタルトキハ前項ノ例ニ依ル

前三項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス
第三十二條 府縣會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第三十三條 當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トス但シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第三十六條 選舉若ハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ選舉ノ際選舉權ヲ有セサル爲當選無効ト確定シタルトキハ第二十九條及第三十一條ノ例ニ依ル

第三十七條 府縣會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ府縣參事會之ヲ決定ス

府縣會ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ

府縣知事ニ於テ被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキ亦同シ

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ列席シ及發言スルノ權ヲ失ハス

第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規定

第四十一條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 歲入出豫算ヲ定ムル事

二 決算報告ニ關スル事

三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

四 不動産ノ處分並買受讓受ニ關スル事

五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

六 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

七 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

八 其ノ他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項

第四十二條 府縣會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十三條 府縣會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第四十四條 府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第四十五條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ

意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス

第四十七條 府縣會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第四十八條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第四十九條 府縣知事及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十條 府縣會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ三十日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限り之ヲ開ク其ノ會期ハ七日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第五十一條 府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十四日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第五十二條 府縣會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十三條 府縣會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ府縣會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第五十五條 法律命令ノ規定ニ依リ府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第十八條第二十七條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ選舉ニ付テハ府縣會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選若ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第五十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序

第五章 府會の行動 關係法令抜萃

八六七

ヲ保持ス

第五十八條 府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得
第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第四十九條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第六十二條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム
書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十三條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シ會議ノ顛末竝出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘ

シ會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六十四條 府縣會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
會議規則ニハ此ノ法律竝會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ府縣會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 府縣參事會

第一款 組織及選舉

第六十五條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事府縣高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員ハ八名トシ縣ノ名譽職參事會員ハ六名トス

府縣高等官ニシテ府縣參事會員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命ス

第六十六條 名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

府縣會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ

名譽職參事會員中闕員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ニ依リ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依ル仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕員ハ前任者ノ殘任期間在任ス
名譽職參事會員及其ノ補充員ハ府縣會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス

第六十七條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス府縣知事故障アルトキハ高等官參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第二款 職務權限及處務規程

第六十八條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
- 二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件シテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決スル事
- 三 府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ付府縣知事ニ對シ意見ヲ述フル事
- 四 府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 府縣ニ係ル訴訟願訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項

第六十九條 府縣參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ府縣ニ係ル出納ヲ

検査セシムルコトヲ得

前項ノ検査ニハ府縣知事又ハ其ノ指名シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第七十條 第四十四條第四十五條第四十九條及第六十二條ノ規定ハ府縣參事會ニ之ヲ準用ス

第七十一條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

府縣參事會ノ會期ハ府縣知事之ヲ定ム

第七十二條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十三條 府縣參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第六十八條第二ノ議決ヲ爲ストキハ府縣知事高等官參事會員ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル會議ノ顛末ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第七十四條 第五十四條ノ規定ハ府縣參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六十六條第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ闕員ヲ補充スヘシ
議長及其ノ代理者共ニ除席セラレタルトキハ年長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ

第四章 府縣行政

第一款 府縣吏員ノ組織及任免

第七十六條 府縣ニ府縣出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第七十七條 府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程

第七十八條 府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス

府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
- 二 府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事
- 三 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
- 四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
- 五 證書及公文書類ヲ保管スル事
- 六 法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使用料手数料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事項

第七十九條 府縣知事ハ議案ヲ府縣會ニ提出スル前之ヲ府縣參事會ノ審査ニ付シ若府縣參事會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

第八十條 府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡島ノ官吏吏員又ハ市町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十二條 府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項取消處分ニ不服アル府縣會若ハ府縣參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
府縣會若ハ府縣參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十三條 府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ

付セスシテ直ニ内務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第八十四條 府縣知事ハ期日ヲ定メテ府縣會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第八十五條 府縣會若ハ府縣參事會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十四條第七十四條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ其ノ招集前告示セラレタル事件ニ關シ議案ヲ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

府縣參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣會若ハ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十六條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十七條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條 官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第八十九條 府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第九十條 府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九十一條 委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ財産若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第九十二條 府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第九十三條 有給府縣吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十四條 府縣會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ定ム

第九十五條 有給府縣吏員ノ退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ前條第二項ノ例ニ依リテ之ヲ定ム

第九十六條 退職料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十七條 給料旅費退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ府縣ノ負擔トス

第五章 府縣ノ財務

第一款 財産營造物及府縣稅

第九十八條 府縣ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第九十九條 府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特

ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第一百一條 府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第一百二條 府縣ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル

費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第一百三條 府縣稅及其ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅令ノ定ム

ル所ニ依ル

府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

第一百四條 府縣内ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百五條 三箇月以上府縣内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負

フ

第一百六條 府縣内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖府縣内ニ於テ土地

家屋物件ヲ所有シ若ハ使用シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ府縣内ニ於テ特定ノ行

爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル府縣

稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業若ハ行爲ニ對シテハ此ノ限

ニ在ラス

第九十九條 府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付ス

ルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限内ニ其ノ議決ヲ爲ササルトキ若ハ不

適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第一百十條 府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設

クルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依ル

第一百十一條 府縣内ノ一部ニ對シテ利益アル事件ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ不均

一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第一百十三條 府縣稅ノ減免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限り府縣知事ハ府縣參事

會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

第一百十四條 市制施行ノ府縣ニ於テハ郡廳舍建築修繕費及郡役所費ハ郡ニ屬スル部分ノ負

擔トス

第一百十六條 府縣稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日没マテノ

間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

府縣稅使用料手數料夫役現品ニ代フル金錢過料其ノ他府縣ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者

アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ國ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ

第五章 府會ノ行動 關係法令拔萃

國税ノ例ニ依ル

第一百七七條 府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得 府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ 府縣ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款 歳入出豫算及決算

第一百八條 府縣知事ハ每會計年度歳入出豫算ヲ調製シ年度開始前府縣會ノ議決ヲ經ヘシ 府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ 豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ財産表ヲ提出スヘシ

第一百九條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得 第一百二十條 府縣費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第二百一十一條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス 第二百二十二條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ内務大臣ニ報告シ竝其ノ要領ヲ告示スヘシ

第二百二十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得 第二百二十四條 決算ハ翌々年ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スヘシ

府縣知事ハ決算ヲ府縣會ニ報告スル前府縣參事會ノ審査ニ付スヘシ若府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ内務大臣ニ報告シ竝其ノ要領ヲ告示スヘシ

第二百五條 豫算調製ノ式竝費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第二百二十六條 府縣出納吏及府縣吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 府縣行政ノ監督

第二百二十七條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第二百三十條 内務大臣ハ府縣ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第三百一十一條 内務大臣ハ勅裁ヲ經テ府縣會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

府縣會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

解散後始メテ府縣會ヲ招集スルトキハ府縣知事ハ第五十條第二項ノ規定ニ拘ラス内務大臣ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第三百三十七條 此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第四百十條 従前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財産處分ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ置キ其ノ他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得第四百十一條 明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法及地方稅ニ關スル從前ノ規定ハ此ノ法律ニ依リ變更シタルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルマテ其ノ效力ヲ有ス

第四百十五條 此ノ法律ニ定ムル直接稅ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第四百十六條 明治十三年第十五號布告府縣會規則明治十四年第八號布告區郡部會規則明治二十二年法律第六號府縣會議員選舉規則其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第四百十七條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○府縣會議員ノ配當ニ關スル件 (明治三十二年五月内務省令第十七號)

第一條 府縣制第五條ニ依リ各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ人口ヲ標準トシ

テ之ヲ定ムヘシ

特別ノ事情アル府縣ニ付テハ内務大臣ハ別ニ配當標準ヲ加フルコトヲ得

本條ノ人口ハ内務大臣ノ告示シタル最近ノ人口表ニ依ル

第二條 議員配當ノ更正ヲ要スルトキハ改選ノ際ヲ俟テ之ヲ行フ但シ議員ノ定數ニ異動ヲ生シ若ハ選舉區ノ増減アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

○市部會郡部會等ノ特例ニ關スル件 (明治三十二年六月勅令第二百八十五號)

第一條 従來市部郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於テハ内務大臣ハ其ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設ケシムルコトヲ得

第二條 市部會郡部會ハ各市部郡部ニ於テ選出シタル府縣會議員ヲ以テ之ヲ組織ス市部又ハ郡部ニ於テ選出スヘキ府縣會議員ノ數十二名ニ滿タサルトキハ府縣制第五條ノ定員ニ拘ハラズ之ヲ十二名トス

第三條 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府縣會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ定ム

第四條 市部會郡部會ヲ設ケタル縣ニ於テハ名譽職參事會員ノ定員ヲ八名トス市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ノ名譽職參事會員ハ各會ニ於テ其ノ定員ノ半數ヲ選舉ス市部參事會郡部參事會ハ府縣知事府縣高等官參事會員及各部會ニ於テ選舉シタル府縣名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 府縣費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ定ム

第六條 第三條第五條ノ事件ニ付テハ議員定員ノ五分ノ四以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第七條 本令ニ規定スルモノヲ除ク外總テ府縣制ノ規定ヲ準用ス

第八條 市部會又ハ郡部會解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議員ハ府縣會議員ノ職ヲ失フ

附 則

第九條 本令ニ依リ市部會郡部會ヲ設クル府縣ニ於テハ從來市部若ハ郡部ニ關スル事件及市郡部連帶ニ關スル事件ハ本令ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第十條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

○市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設クヘキ府縣 (明治三十二年六月二十一日内務省令第二十五號)

本年勅令第二百八十五號ニ依リ左ノ府縣ニ於テハ從來ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設クヘシ

東京府 京都府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣 愛知縣 廣島縣

○府縣制郡制ノ直接稅ノ種類 (明治三十二年六月十九日内務省告示第六十九號)

本年法律第六十四號府縣制第四百四十五條本年法律第六十五號郡制第二百二十七條直接稅ノ種類左ノ如シ

國 稅

地 租 所得稅

營業稅

府縣稅

地租割 戶數割 家屋稅

營業稅 雜種稅 營業稅附加稅

(明治三十二年内務省告示第七十四號を以て左の通追加す)

國稅中所得稅ノ下ニ左ノ割註ヲ加フ

(所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中)
(無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク)

(明治三十二年内務省告示第九十七號を以て左の通追加す)

府縣稅中營業稅附加稅ノ下ニ所得稅附加稅ヲ加フ

(明治三十九年内務省告示第六十八號を以て左の通追加す)

國稅中營業稅ノ下ニ鑛業稅府縣稅中所得稅附加稅ノ下ニ鑛業稅附加稅ヲ加フ

○府縣稅家屋稅ニ關スル件 (明治三十二年勅令第二百七十六號)

府縣ハ其ノ府縣ノ全部若ハ一部ノ地ニ於ケル家屋ニ對シ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ家

第五章 府會の行動 關係法令拔萃

屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス
前項ニ依リ新ニ家屋稅ヲ賦課セントスルトキハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ許
可ヲ受クヘシ

附 則

本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

○府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件 (明治三十二年六月勅令第三百十六號)

第一條 府縣ハ臨時少額ノ費用ノ爲特ニ賦課徵收ヲ爲スヲ要スル場合ニ於テハ其ノ費用ヲ
府縣内市町村ニ分賦スルコトヲ得

前項ニ依リ分賦スヘキ費用ノ限度ハ内務大臣之ヲ定ム

第一項分賦ノ割合ハ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル市町村ノ直接國稅府縣稅ノ徵
收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經
内務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

第二條 市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ市部ニ屬スル部分
ヨリ徵收スヘキ額ヲ市ニ分賦スルコトヲ得

第三條 法律命令中別ニ規定アルモノヲ除ク外市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣
ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事件ニシテ其ノ市部ト郡部ト利益ノ程度ヲ異ニシ均一ノ賦課ヲ
爲シ難キ事情アルトキハ其ノ費用ニ限り不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

附 則

第四條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

○府縣ニ於テ市町村ニ分賦シ得ヘキ費用ノ限度ノ件 (明治三十二年六月内務省令
第二十九號)

本年勅令第三百十六號第一條ニ依リ府縣ニ於テ市町村ニ分賦スルコトヲ得ヘキ費用ノ限度
ハ當該年度ノ府縣稅既定豫算額ノ十分ノ一トス

○府縣稅徵收ニ關スル件 (明治三十三年三月勅令第八十一號)

第一條 市町村ハ其ノ市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ
前項府縣稅ノ徵收ニ關シテハ地租附加稅ヲ除ク外徵收金額百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付
スヘシ

第二條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ税金納入義
務ノ免除ヲ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第三條 府縣知事前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定
ニ不服アル者ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ内務大臣ニ訴願ス
ルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○府縣制郡制ニ依ル費用流用並財務ニ關スル件 (明治三十三年三月十三日內務省令第七號)

明治三十二年法律第六十四號府縣制第二百五條明治三十二年法律第六十五號郡制第三百三條ニ依リ費用流用並財務ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 府縣稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編入スヘシ

第二條 各年度ニ於テ決定シタル歲入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歲出ニ充ツルコトヲ得ス
第三條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ編入スヘシ

第四條 歲入ノ誤納過納トナリタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歲入ヨリ仕拂フヘシ
歲出ノ誤拂過渡トナリタル金額現金前渡前金拂概算拂繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第五條 出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歲入歲出ト爲スヘシ

第六條 繼續費ハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終リマテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第七條 毎年度歲入歲出金ヲ出納スルハ翌年度七月三十一日限リトス

第八條 府縣ノ出納ニ關スル事務ハ年度經過後五箇月以内ニ完整スヘシ

第九條 歲入歲出豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スヘシ

第十條 歲入歲出豫算ヲ提出スルトキハ豫算説明ヲ付スヘシ

第十一條 特別會計ニ屬スル歲入歲出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第十二條 豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 府縣ノ收入支出ニシテ命令ヲ發スルヲ要スルモノハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏其ノ他職員ニ於テ之ヲ發ス

第十四條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得但シ機密費ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ付スヘシ

第十六條 會計年度經過後ニ至リ歲入ニ不足ヲ生シ歲出ニ充ツルニ足ラサルトキハ翌年度ノ歲入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第十七條 府縣出納吏ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ府縣知事ニ於テ検査員ヲ命シ少クトモ毎年一回之ヲ検査セシムヘシ

第十八條 府縣出納吏解職セラレタルトキハ府縣知事ハ検査員ヲシテ現金及帳簿ヲ検査セシムヘシ

第十九條 府縣金庫ハ府縣本金庫府縣支金庫トス

府縣本金庫ハ府縣廳所在地ニ之ヲ置キ府縣支金庫ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムル地ニ之ヲ置ク

府縣本金庫ハ府縣支金庫ヲ總轄ス

第二十條 金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ府縣知事之ヲ定ム

金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ許可ヲ得其ノ責任ヲ以テ他ノ銀行又ハ其ノ他ノ者ヲシテ金庫事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十一條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金出納保管ニ付責任ヲ有ス

第二十二條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ擔保ヲ府縣知事ニ提出スヘシ其ノ擔保ニ關シテハ

內務大臣ノ認可ヲ經府縣知事之ヲ定ム

第二十三條 府縣知事ハ府縣金庫ヲ監督シ検査員ヲシテ定期及臨時ニ現金帳簿ヲ検査セシメ又必要ト認ムルトキハ臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 本令ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ府縣知事之ヲ定ム

第二十五條 本令ハ明治三十三年度所屬ノ收支ヨリ之ヲ適用ス但シ本令ノ規定ニシテ適用

シ難キモノハ內務大臣ノ認可ヲ得テ當分其ノ施行ヲ延期スルコトヲ得

第二十六條 郡ノ財務ニ關スル規定ハ本令ニ準シ府縣知事之ヲ定ム

東京府史 府會篇 第四卷 (完)

昭和六年五月二日印刷
昭和六年五月四日發行

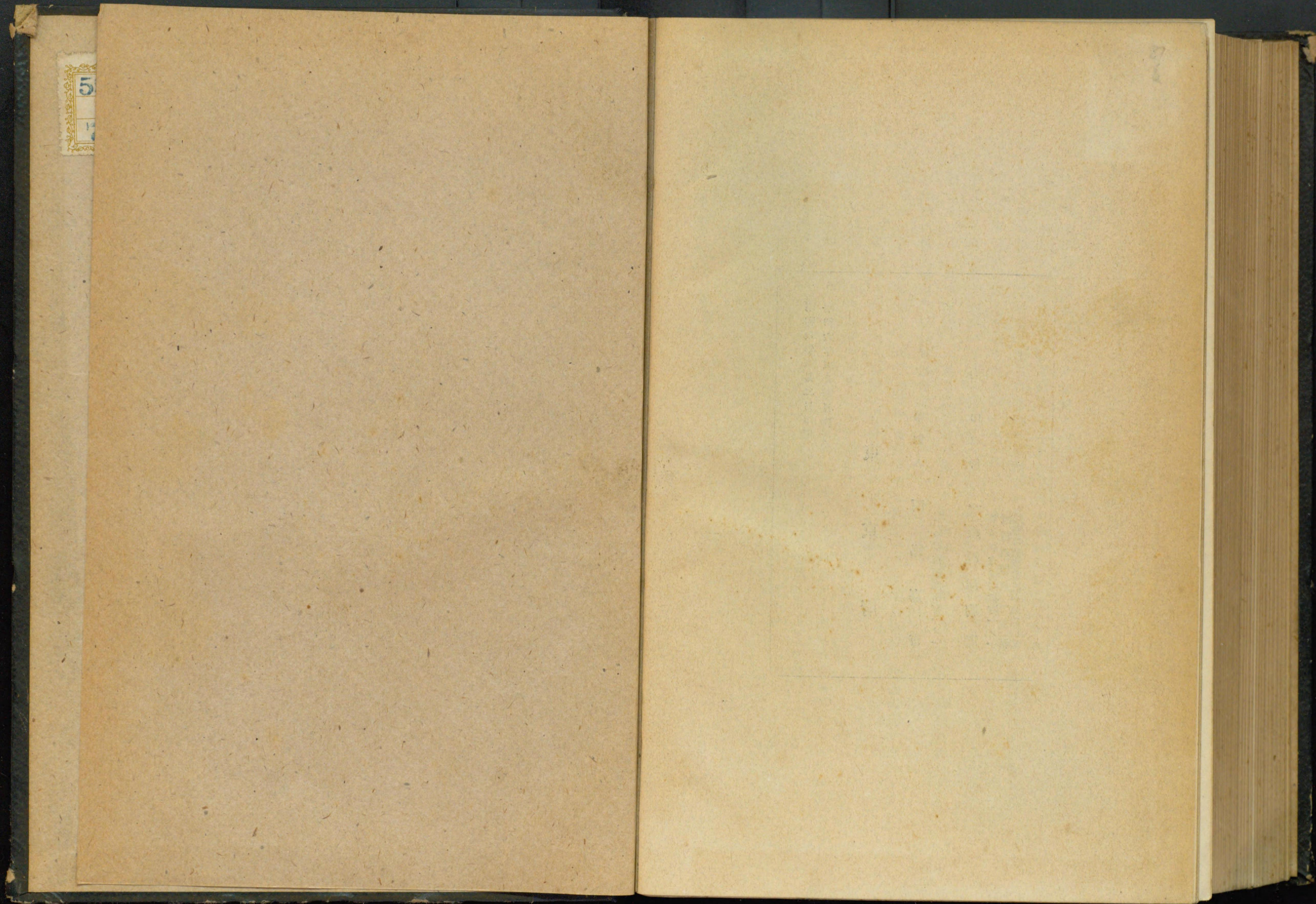
東京府

印刷人 西 脇 嘉 市

東京市京橋區横町一ノ一

印刷所 一 成 社 印刷所

東京市京橋區横町一ノ一
電話 京橋八三三番
振替口座東京三一八六〇番



5

594
79

